

Ⅱ 結果の内容

《信州防災アプリについて》

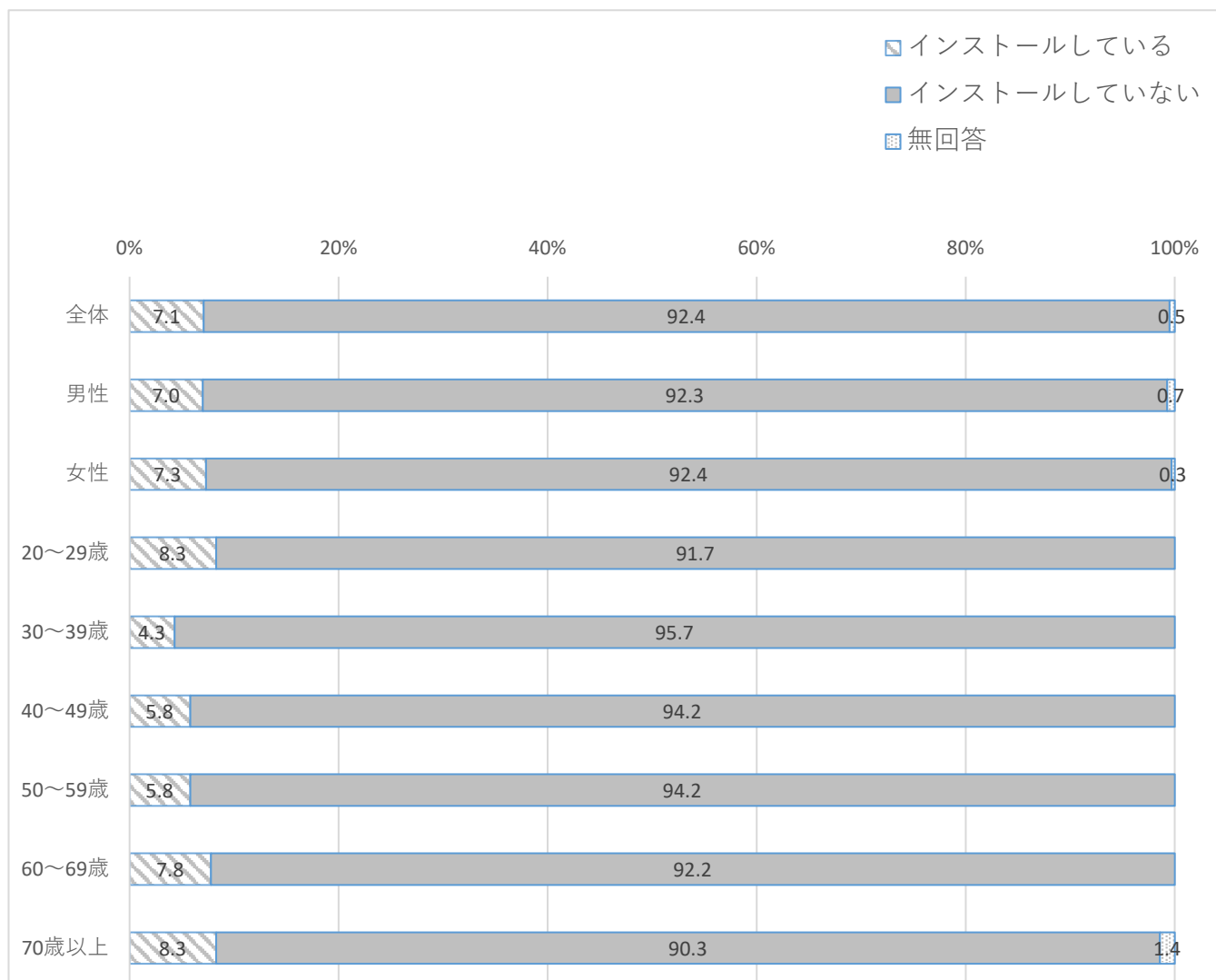
＜アプリの利用状況＞

「インストールしていない」が約9割

問1 信州防災アプリ(以下「アプリ」という。)をインストールしていますか。当てはまるものを選んでください。(〇は1つ)

	n=813	回答数 (人)	割合 (%)
インストールしている		58	7.1
インストールしていない		751	92.4
無回答		4	0.5

● 「インストールしていない」が全体の92.4%と最も高い。男女別では、大きな差は見られない。年代別では、30～39歳の年代で「インストールしていない」の割合が最も高い。

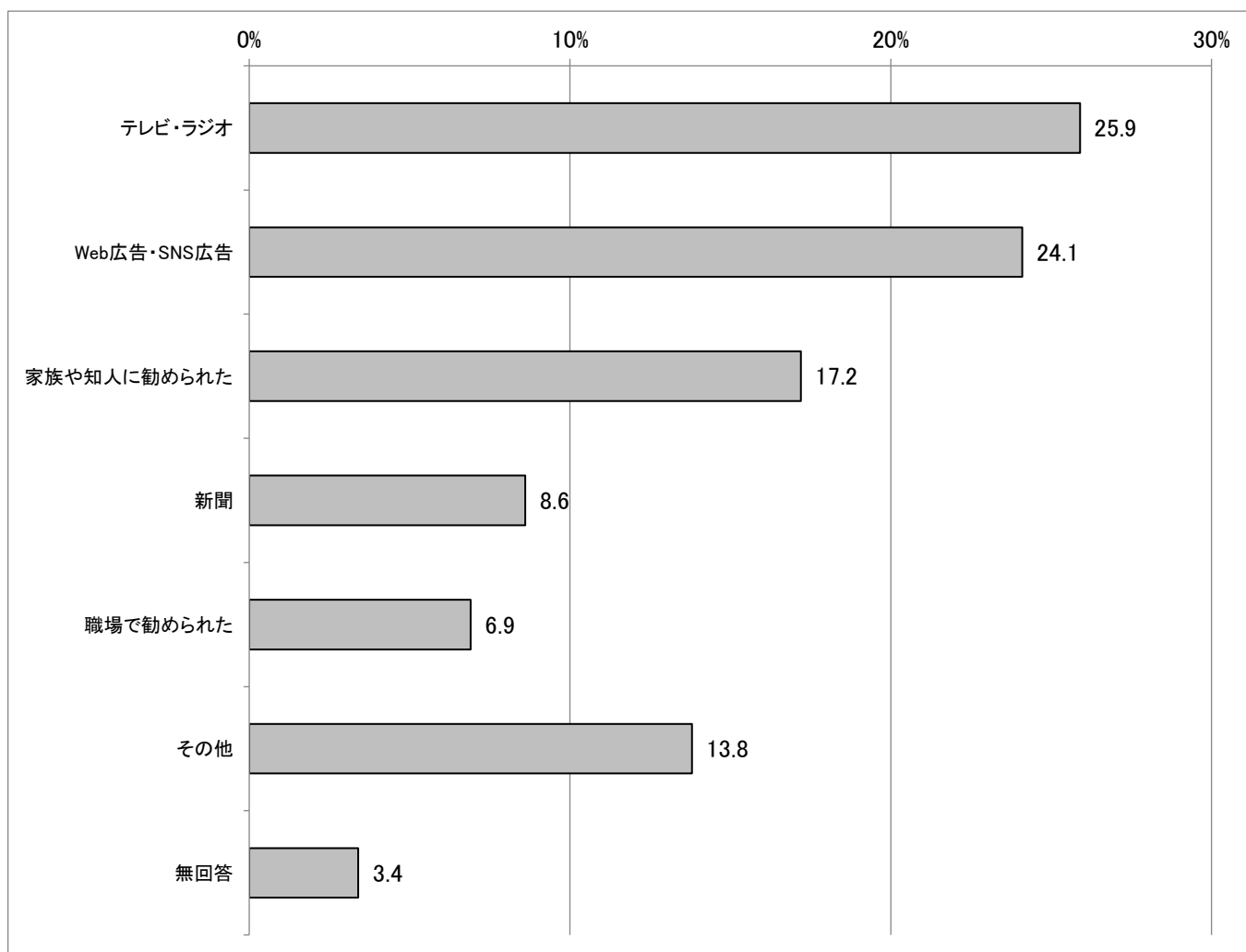


<アプリを知ったきっかけ>
「テレビ・ラジオ」及び「Web広告・SNS広告」が2割超

問2 問1で「①インストールしている」を選択した方に伺います。
アプリを何で知りましたか。当てはまるものを選んでください。(〇は1つ)

	n=58	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ・ラジオ		15	25.9
Web広告・SNS広告		14	24.1
家族や知人に勧められた		10	17.2
新聞		5	8.6
職場で勧められた		4	6.9
その他		8	13.8
無回答		2	3.4

●「テレビ・ラジオ」が25.9%と最も高く、次に「Web広告・SNS広告」(24.1%)、「家族や知人に勧められた」(17.2%)と続いている。



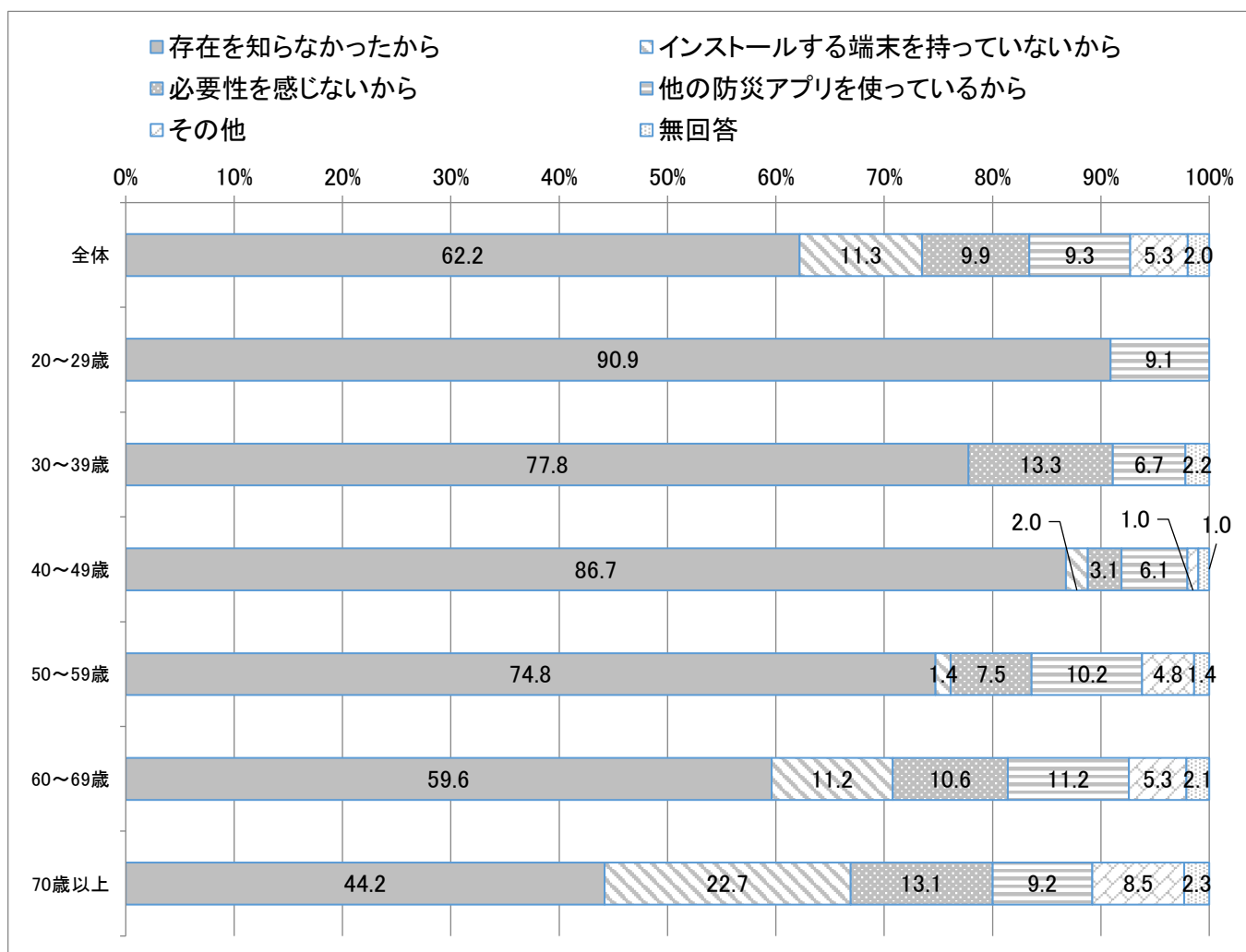
その他としては、「災害情報を提供するアプリを検索して見つけた」「自治体(町役場)」「自治会」「回覧板のチラシ」等の回答が見られた。

＜アプリをインストールしていない理由＞
「存在を知らなかったから」が約6割

問3 問1で「②インストールしていない」を選択した方に伺います。
アプリをインストールしていない理由は何ですか。当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
存在を知らなかったから	467	62.2
スマートフォンやタブレットなど、インストールする端末を持っていないから	85	11.3
必要性を感じないから	74	9.9
他の防災アプリを使っているから	70	9.3
その他	40	5.3
無回答	15	2.0

●すべての年代において「存在を知らなかったから」が最も高い。問1で「インストールしていない」の割合が最も高かった30～39歳の年代では、「必要性を感じないから」が2番目に高い。



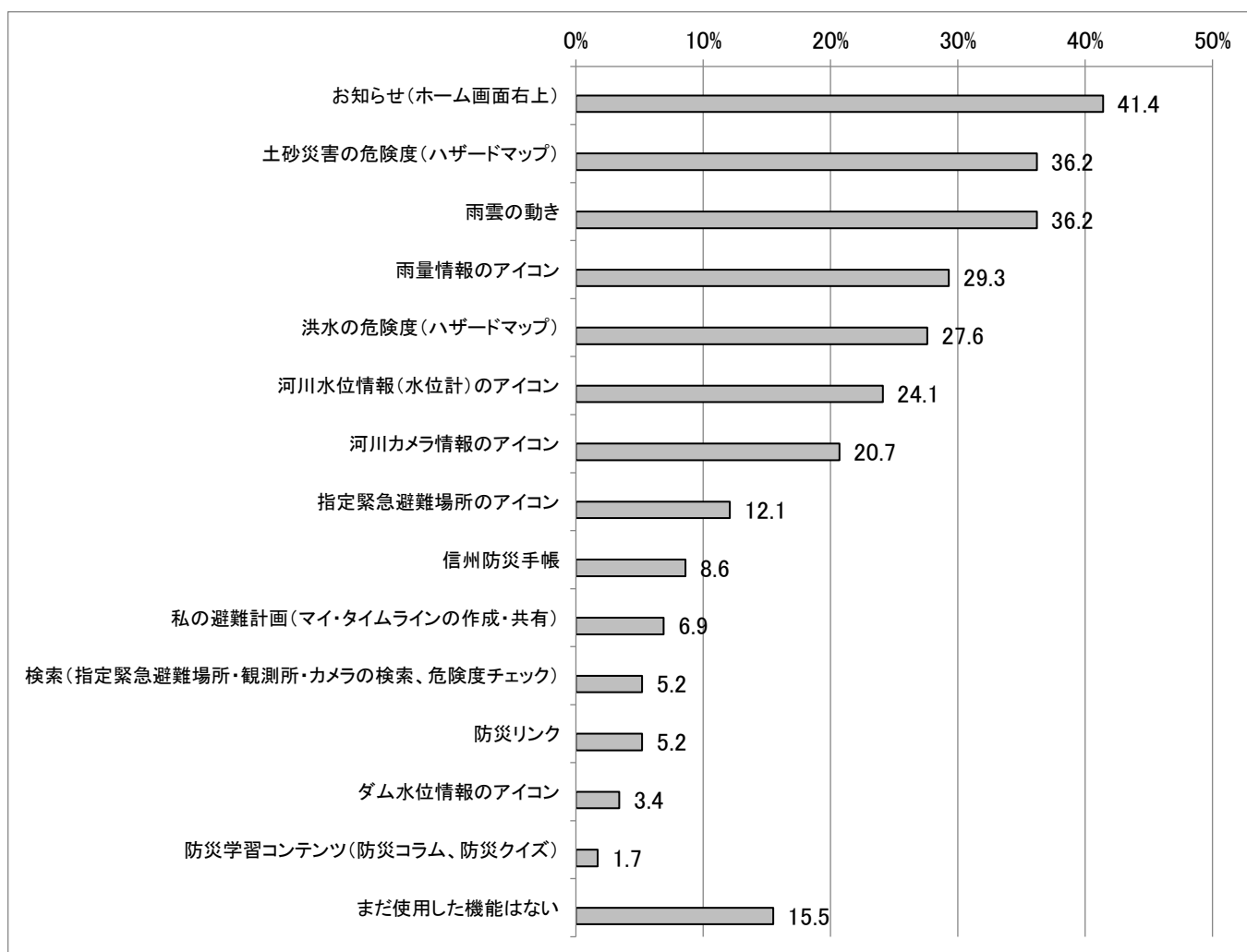
その他としては、「面倒だから」「使い方がわからないから」「家族がインストールしているから」等の回答が見られた。

<アプリの中でよく使う機能>
「お知らせ」が約4割、「土砂災害の危険度」、「雨雲の動き」が4割弱

問4 アプリの中でよく使う機能は何ですか。当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	回答数 (人)	割合 (%)
お知らせ(ホーム画面右上)	24	41.4
土砂災害の危険度(ハザードマップ)	21	36.2
雨雲の動き	21	36.2
雨量情報のアイコン	17	29.3
洪水の危険度(ハザードマップ)	16	27.6
河川水位情報(水位計)のアイコン	14	24.1
河川カメラ情報のアイコン	12	20.7
指定緊急避難場所のアイコン	7	12.1
信州防災手帳	5	8.6
私の避難計画(マイ・タイムラインの作成・共有)	4	6.9
検索(指定緊急避難場所・観測所・カメラの検索、危険度チェック)	3	5.2
防災リンク	3	5.2
ダム水位情報のアイコン	2	3.4
防災学習コンテンツ(防災コラム、防災クイズ)	1	1.7
まだ使用した機能はない	9	15.5

●「お知らせ」が41.4%と最も高く、「土砂災害の危険度」及び「雨雲の動き」(36.2%)が2番目に高い。「防災学習コンテンツ」が1.7%と最も低い。

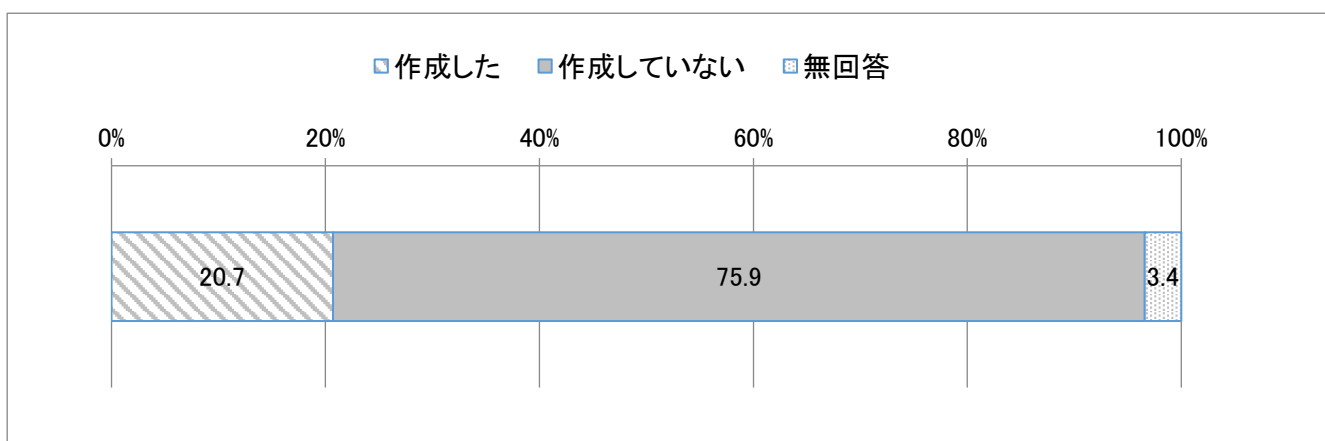


<マイ・タイムラインの作成状況>
「作成していない」が7割超

アプリでは、「私の避難計画」機能を使って、マイ・タイムラインを誰でも簡単に作成することができます。
 問5 アプリを使ってマイ・タイムライン(私の避難計画)を作成しましたか。(〇は1つ)
 作成していない方は、理由も併せて記述してください。

	n=58	回答数 (人)	割合 (%)
作成した		12	20.7
作成していない		44	75.9
無回答		2	3.4

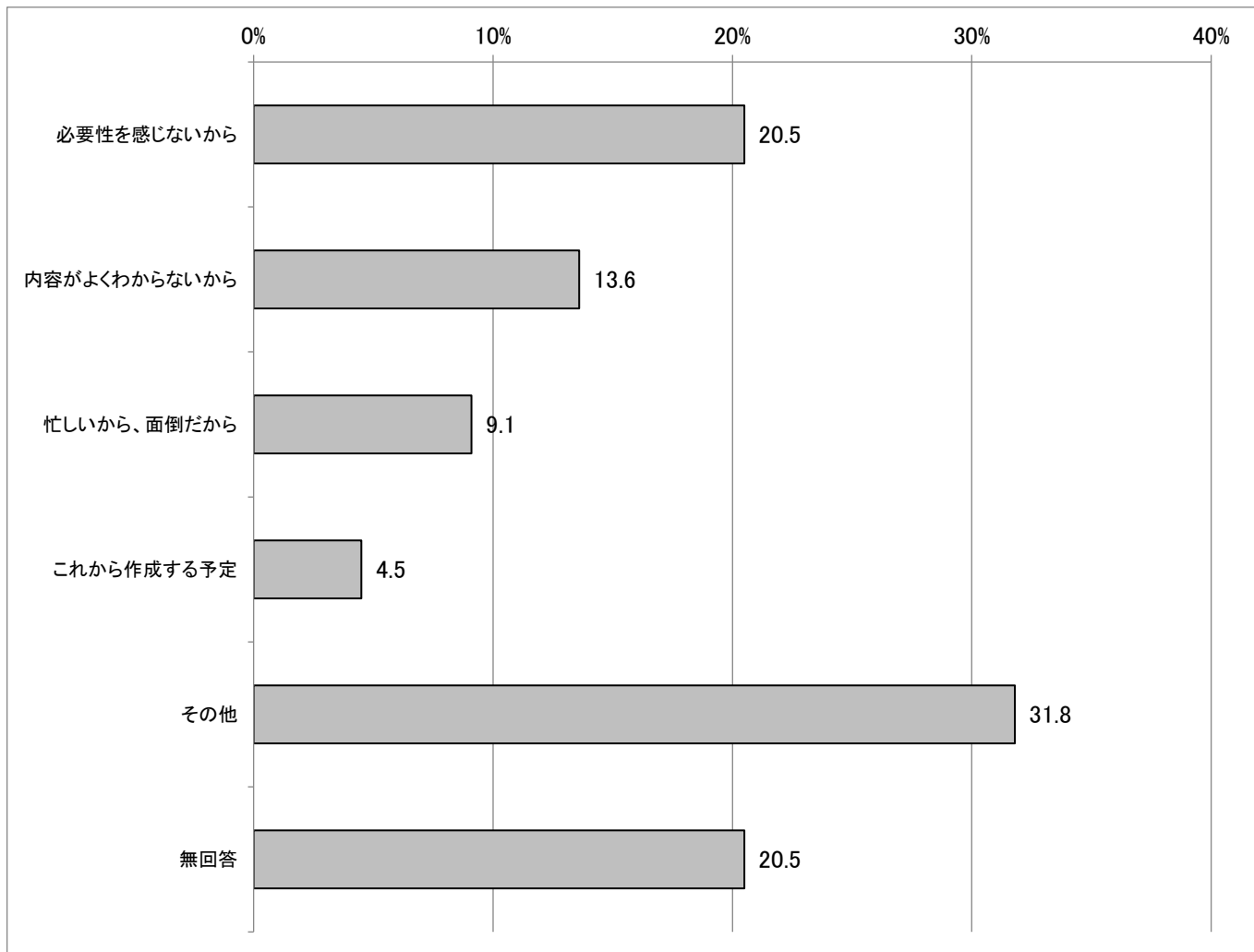
●「作成していない」が75.9%、「作成した」が20.7%となっている。



問5で「作成していない」と回答した方の理由

	n=44	回答数 (人)	割合 (%)
必要性を感じないから		9	20.5
内容がよくわからないから		6	13.6
忙しいから、面倒だから		4	9.1
これから作成する予定		2	4.5
その他		14	31.8
無回答		9	20.5

●「必要性を感じないから」が20.5%と最も高く、次に「内容がよくわからないから」(13.6%)、「忙しいから、面倒だから」(9.1%)と続いている。



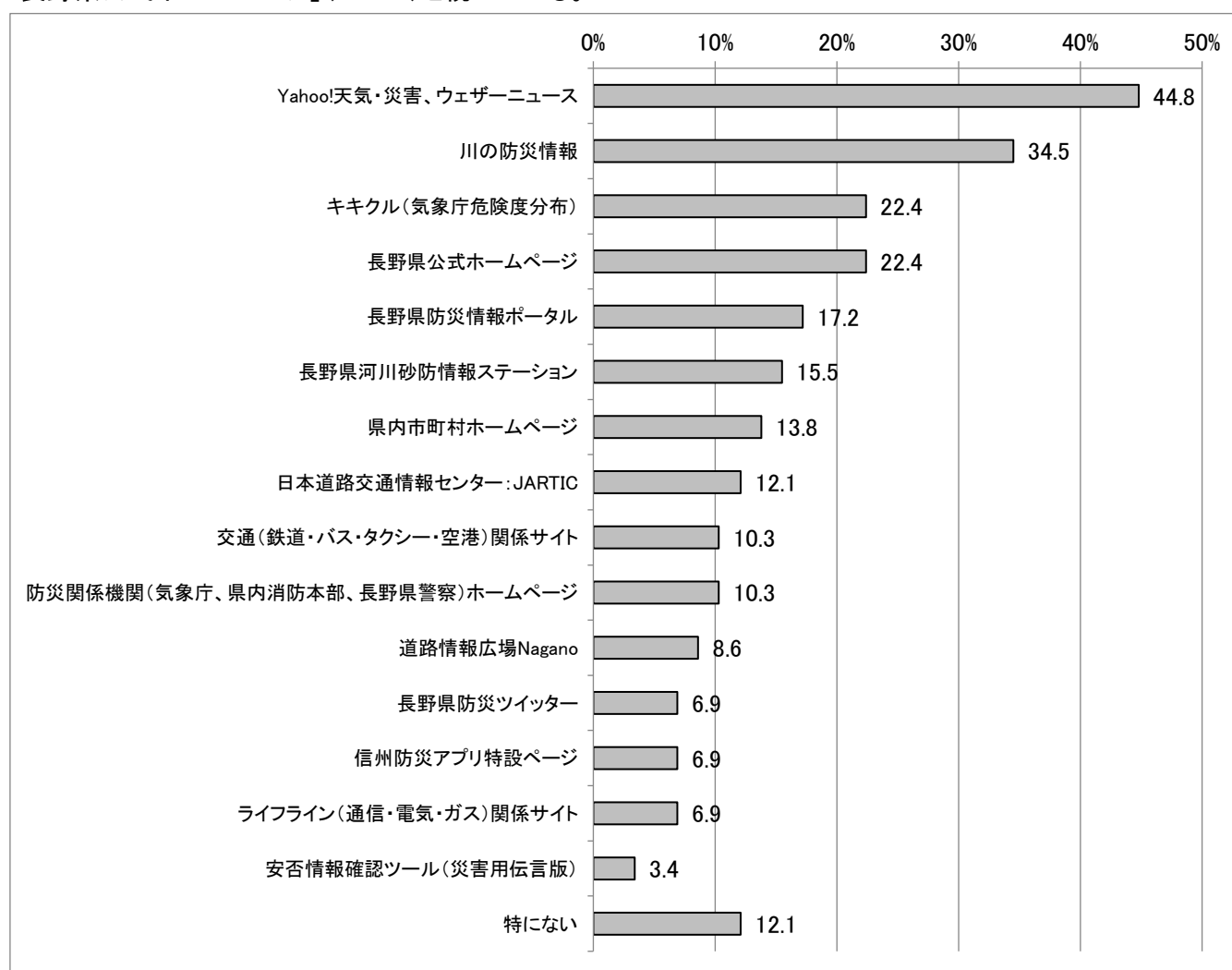
その他としては、「避難所が近くにあるから」「時と場合によって自分の居場所等が変わるから」「家族に任せている」等の回答が見られた。

<防災リンクの中でよく閲覧するウェブページ>
「Yahoo!天気・災害、ウェザーニュース」が4割超、「川の防災情報」が3割超

問6 アプリでは、情報収集のための「防災リンク」を掲載しています。次の中で、よく閲覧するウェブページは何ですか。当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	回答数 (人)	割合 (%)
	n=58	
Yahoo!天気・災害、ウェザーニュース	26	44.8
川の防災情報	20	34.5
キキクル(気象庁危険度分布)	13	22.4
長野県公式ホームページ	13	22.4
長野県防災情報ポータル	10	17.2
長野県河川砂防情報ステーション	9	15.5
県内市町村ホームページ	8	13.8
日本道路交通情報センター:JARTIC	7	12.1
交通(鉄道・バス・タクシー・空港)関係サイト	6	10.3
防災関係機関(気象庁、県内消防本部、長野県警察)ホームページ	6	10.3
道路情報広場Nagano	5	8.6
長野県防災ツイッター	4	6.9
信州防災アプリ特設ページ	4	6.9
ライフライン(通信・電気・ガス)関係サイト	4	6.9
安否情報確認ツール(災害用伝言版)	2	3.4
特にない	7	12.1

●「Yahoo!天気・災害、ウェザーニュース」が44.8%と最も高く、次に「川の防災情報」(34.5%)、「キキクル」及び「長野県公式ホームページ」(22.4%)と続いている。



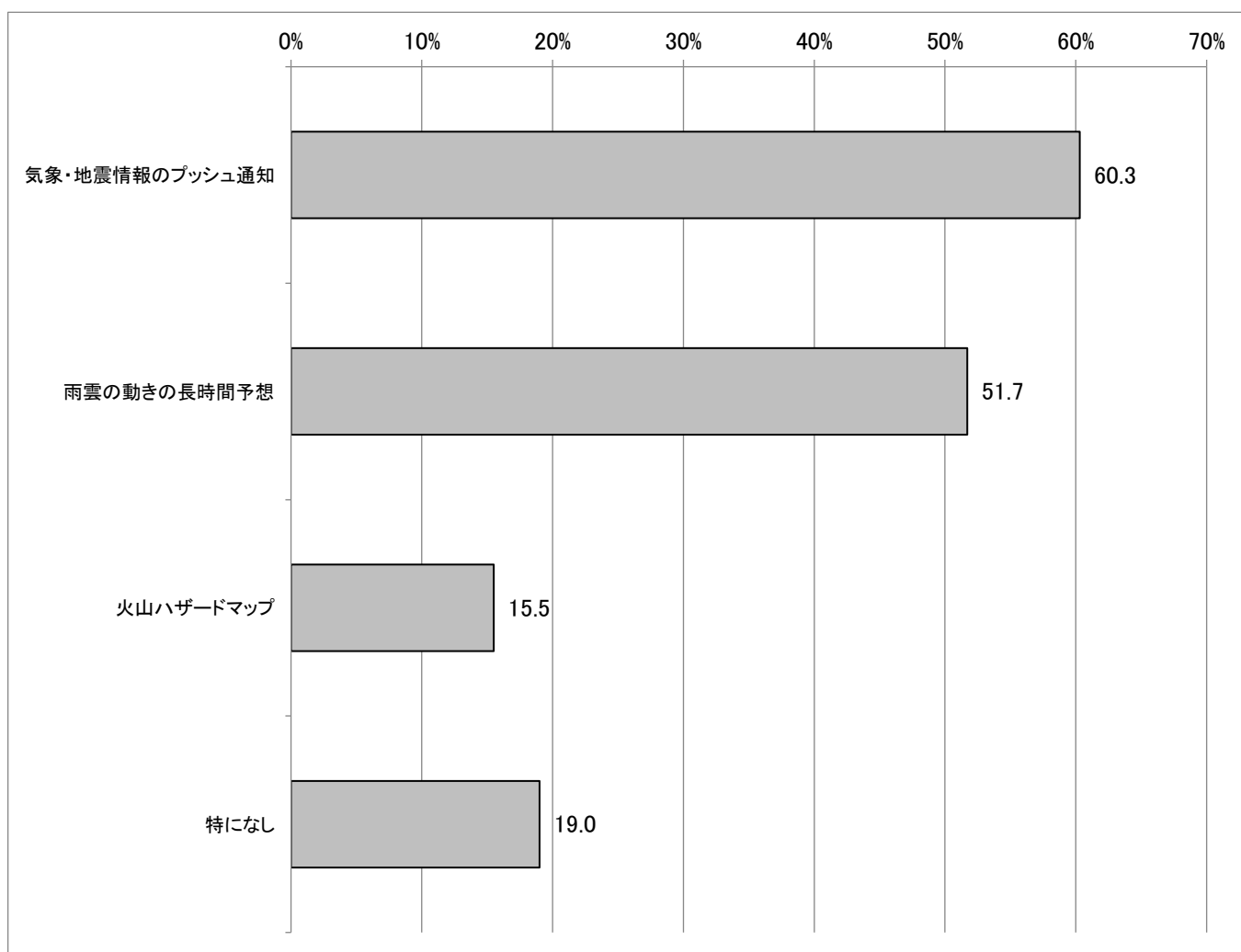
防災リンクに追加した方が良いと思うウェブページについては、「冬季高速道路規制情報」、「各市町村のナビ」といった回答が見られた。

＜アプリに追加した方が良いと思う機能＞
 「気象・地震情報のプッシュ通知」が約6割、「雨雲の動きの長時間予想」が約5割

問7 今後、アプリに追加した方が良いと思う機能は何ですか。
 当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	n=58	回答数 (人)	割合 (%)
気象・地震情報のプッシュ通知		35	60.3
雨雲の動きの長時間予想(現行1時間先を15時間先までに変更)		30	51.7
火山ハザードマップ		9	15.5
その他		0	0.0
特になし		11	19.0

●「気象・地震情報のプッシュ通知」(60.3%)及び「雨雲の動きの長時間予想」(51.7%)が半数以上を占めている。



＜アプリの活用方法＞

58人の回答対象者のうち、35人から回答をいただいた。(約6割)

問8 アプリをどのように活用していますか。あるいは、今後どのように活用していきたいと考えていますか。自由に記述してください。

	n=58	回答数 (人)	割合 (%)
意見数		35	60.3

問1で「アプリをインストールしている」と回答した県政モニター58人中、35人から回答があった。

主な回答は以下のとおり（抜粋）。

- 家族でハザードマップの情報を共有し、避難時の避難先の確認。続いてその後の生活について話し合った。
- 具体的に家族の避難計画を考えるうえで、アプリによりマイ・タイムラインを作成した。スマホ一つで作成でき、途中で提案も自動で出てくるので、使いやすかった。
- 仕事、通学、通園時の気象情報を家族全員に注意喚起している。特に台風、大雨時。
- 地区の集まりでアプリを使ってマップを確認した。
- 市で開催される研修会にてハザードマップ等を確認。
- 職場の危機管理に利用している。
- 自治会などで入力の仕方や情報交換をしてアプリ活用ができるようにすればもっと活用できると思う。
- 家族・地域のなかで、年配の方などはアプリをインストールするところからわからない人が多いと思うので、そこから一緒に始め、どのように活用したら良いかを考えていけたらと思う。
- 今のところは見ているだけだが、家族で避難計画などを共有したいと思っている。
- 防災について学んで災害に備えていきたい。家族と避難の計画を作っていきたい。

《自然災害への備えについて》

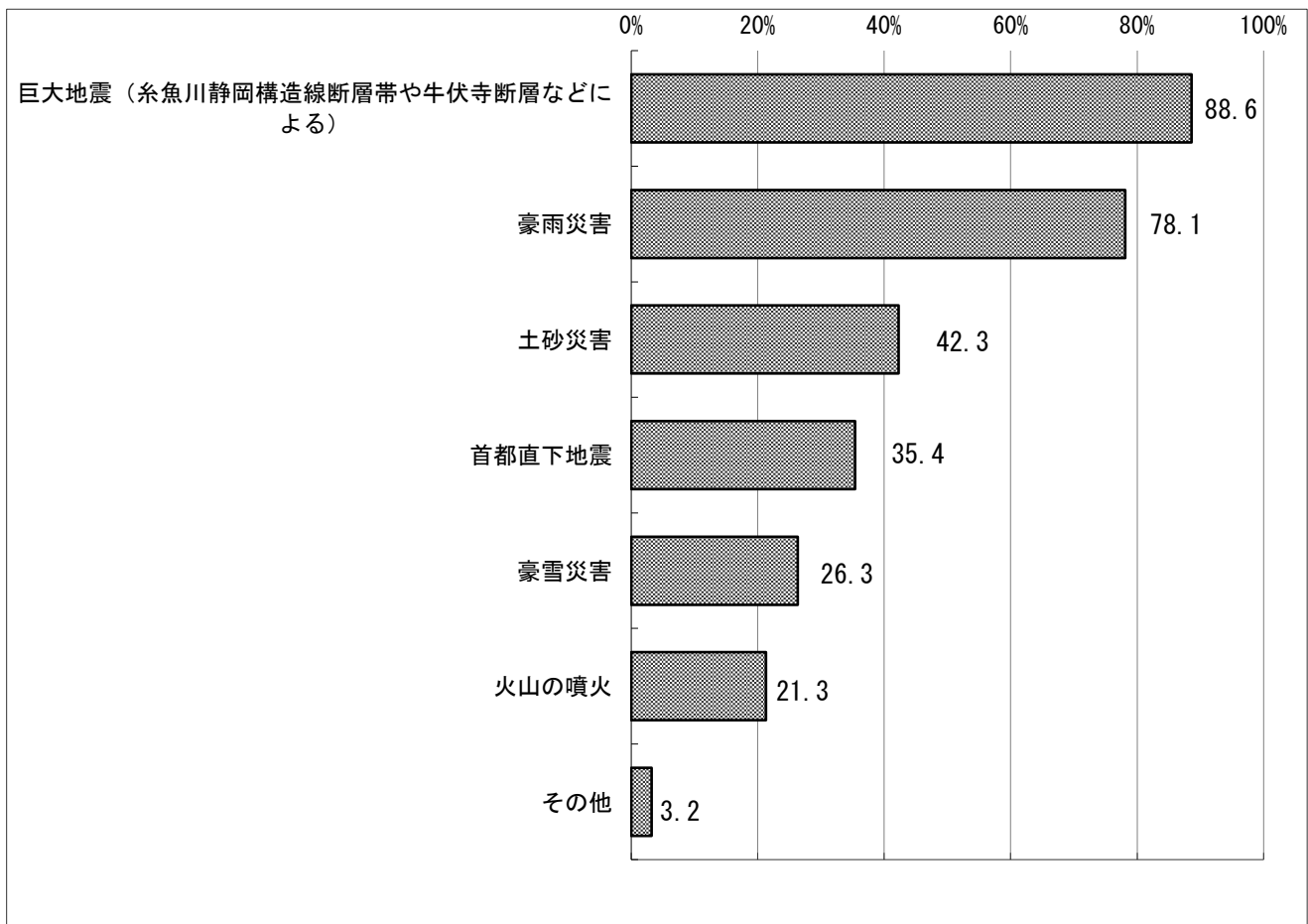
＜脅威に感じる自然災害＞

「巨大地震(糸魚川静岡構造線断層帯や牛伏寺断層など)」が約9割。また、豪雨災害の回答数が3割増加

問9 今後起こりうる自然災害として、あなたが脅威に感じる自然災害を選んでください。(○はいくつでも)

	今回調査 n=813		(参考)前回 H26.12月調査 n=811	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
巨大地震(糸魚川静岡構造線断層帯や牛伏寺断層などによる)	720	88.6	632	77.9
豪雨災害	635	78.1	364	44.9
土砂災害	344	42.3	286	35.3
首都直下地震	288	35.4	183	22.6
豪雪災害	214	26.3	259	31.9
火山の噴火	173	21.3	254	31.3
その他	26	3.2	9	1.1

●「巨大地震が88.6で最も高く、次いで「豪雨災害」(78.1%)となっている。



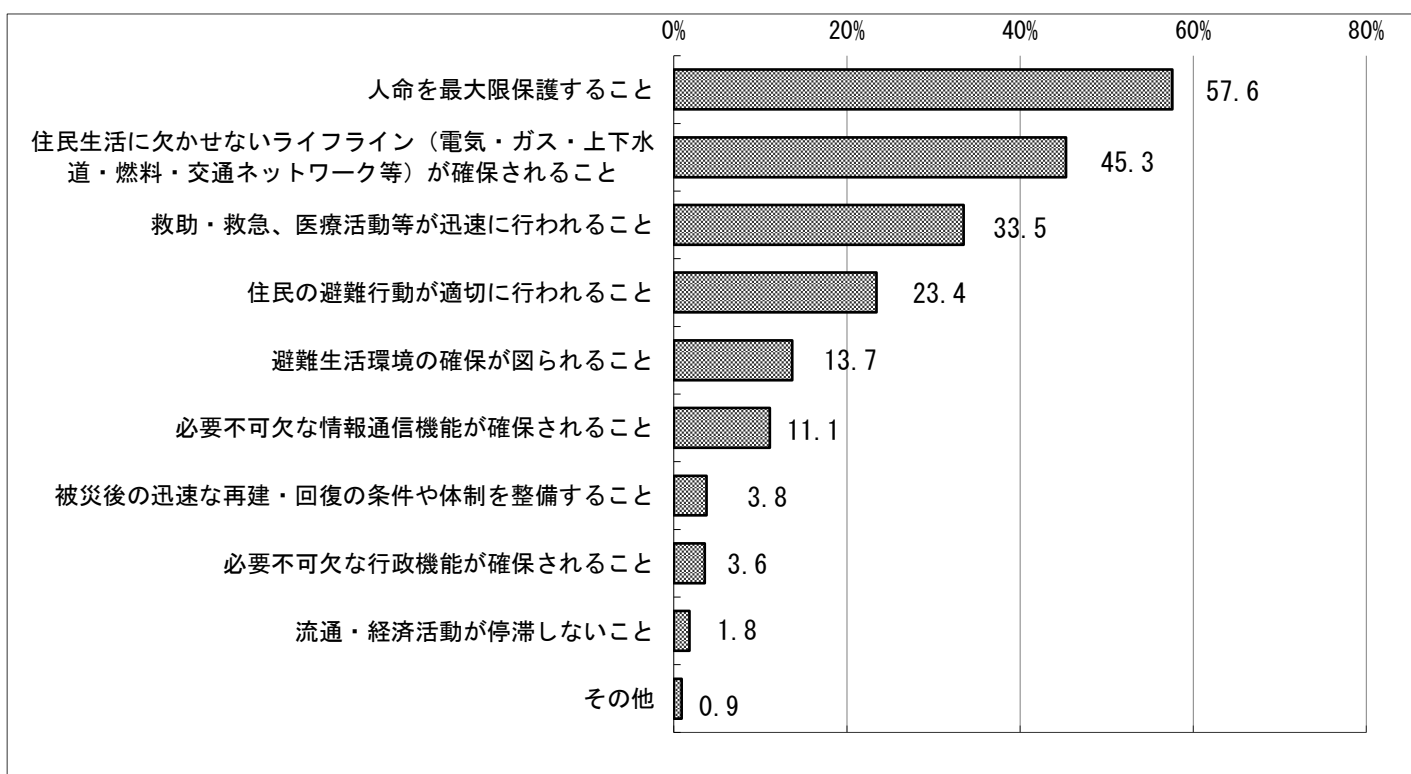
＜事前に備えるべきこと＞

「人命を最大限保護すること」が約6割。新設項目の「住民の避難行動が適切に行われること」と「避難生活環境の確保が図られること」も重視されている。

問10 自然災害に事前に備えるべきこととして、優先度が高いと思われるものを選んでください。（○は2つまで）

	今回調査 n=813		(参考)前回 H26.12月調査 n=811	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
人命を最大限保護すること	468	57.6	461	56.8
住民生活に欠かせないライフライン(電気・ガス・上下水道・燃料・交通ネットワーク等)が確保されること	368	45.3	467	57.6
救助・救急、医療活動等が迅速に行われること	272	33.5	379	46.7
住民の避難行動が適切に行われること	190	23.4	-	-
避難生活環境の確保が図られること	111	13.7	-	-
必要不可欠な情報通信機能が確保されること	90	11.1	103	12.7
被災後の迅速な再建・回復の条件や体制を整備すること	31	3.8	83	10.2
必要不可欠な行政機能が確保されること	29	3.6	44	5.4
流通・経済活動が停滞しないこと	15	1.8	14	1.7
その他	7	0.9	-	-

●「人命の保護が最大限図られること」が57.6%で最も高く、次いで「必要最低限のライフライン（電気・ガス・上下水道・燃料・交通ネットワーク等）が確保されること」（45.3%）となっている。



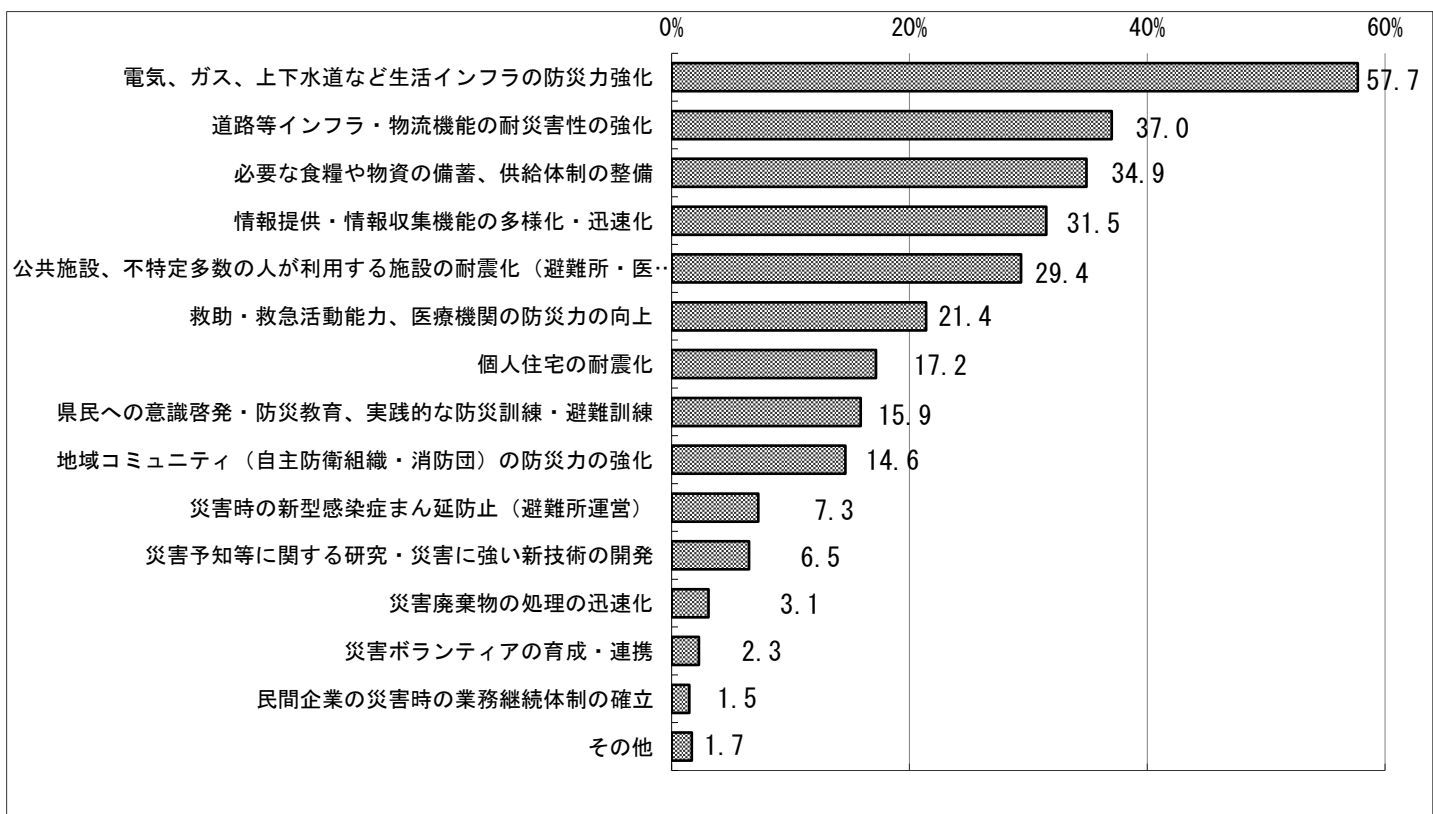
<災害に備える対策>

「電気、ガス、上下水道など生活インフラの防災力強化」が約6割

問11 自然災害に備える対策として優先度が高いと思われるものを選んでください。(○は3つまで)

	今回調査 n=813		(参考)前回 H26.12月調査 n=811	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
電気、ガス、上下水道など生活インフラの防災力強化	469	57.7	-	-
道路等インフラ・物流機能の耐災害性の強化	301	37.0	373	46.0
必要な食糧や物資の備蓄、供給体制の整備	284	34.9	152	18.7
情報提供・情報収集機能の多様化・迅速化	256	31.5	206	25.4
公共施設、不特定多数の人が利用する施設の耐震化(避難所・医療施設・行政機関)	239	29.4	312	38.5
救助・救急活動能力、医療機関の防災力の向上	174	21.4	176	21.7
個人住宅の耐震化	140	17.2	208	25.6
県民への意識啓発・防災教育、実践的な防災訓練・避難訓練	129	15.9	108	13.3
地域コミュニティ(自主防衛組織・消防団)の防災力の強化	119	14.6	220	27.1
災害時の新型コロナウイルスまん延防止(避難所運営)	59	7.3	-	-
災害予知等に関する研究・災害に強い新技術の開発	53	6.5	96	11.8
災害廃棄物の処理の迅速化	25	3.1	-	-
災害ボランティアの育成・連携	19	2.3	42	5.2
民間企業の災害時の業務継続体制の確立	12	1.5	19	2.3
その他	14	1.7	16	2.0

●「電気、ガス、上下水道など生活インフラの防災力強化」が57.7%で最も高く、次いで「道路等インフラ・物流機能の耐災害性の強化」(37.0%)、「必要な食糧や物資の備蓄、供給体制の整備」(34.9%)となっている。



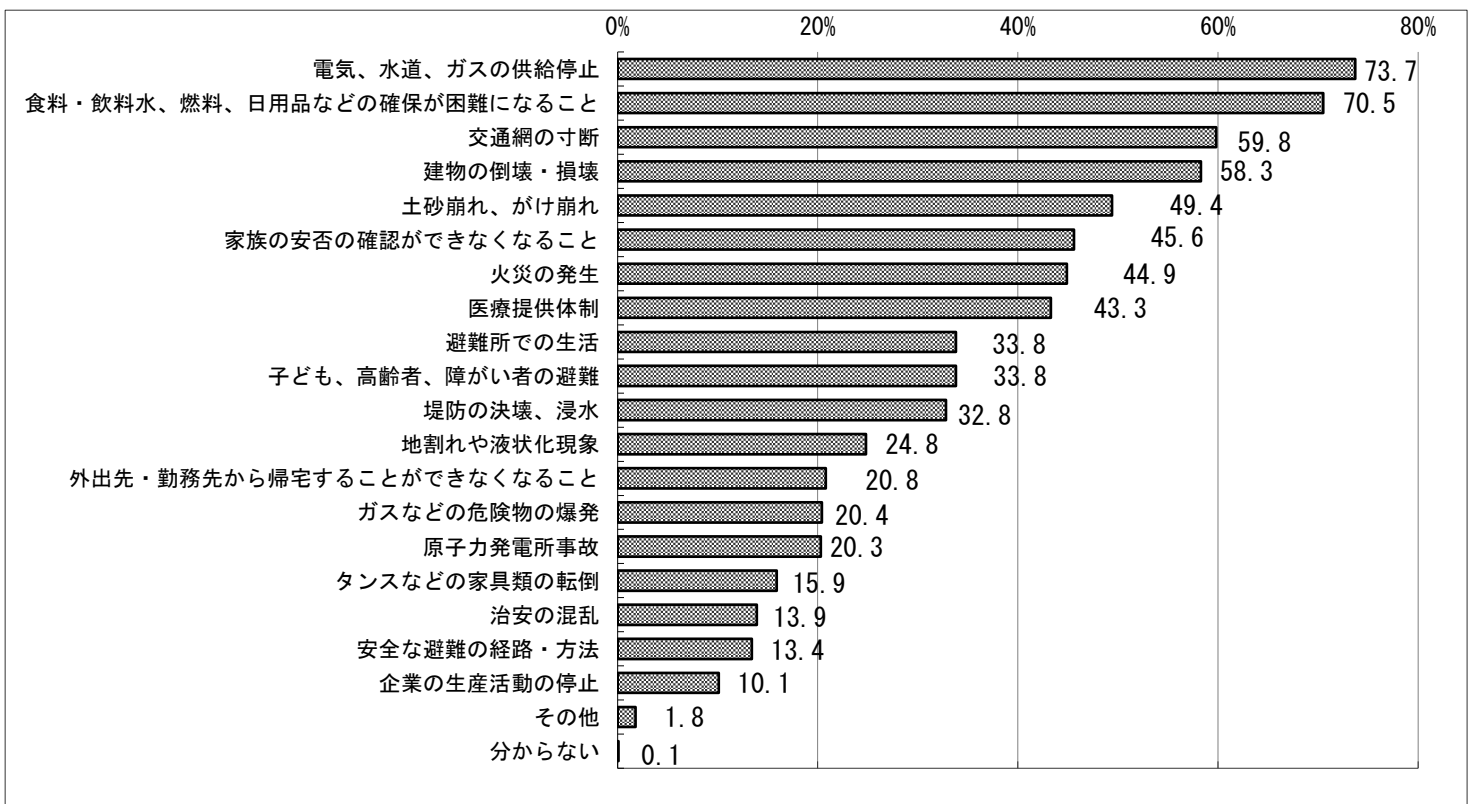
＜地震で心配すること＞

「電気、水道、ガスの供給停止」及び「食料・飲料水、燃料、日用品などの確保困難」が約7割

問12 巨大地震（糸魚川静岡構造線断層帯や牛伏寺断層など）が起こった場合、心配なことを選んでください。
（○はいくつでも）

	今回調査 n=813		(参考)前回 H26.12月調査 n=811	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
電気、水道、ガスの供給停止	599	73.7	543	67.0
食料・飲料水、燃料、日用品などの確保が困難になること	573	70.5	545	67.2
交通網の寸断	486	59.8	-	-
建物の倒壊・損壊	474	58.3	530	65.4
土砂崩れ、がけ崩れ	402	49.4	393	48.5
家族の安否の確認ができなくなる	371	45.6	464	57.2
火災の発生	365	44.9	454	56.0
医療提供体制	352	43.3	-	-
避難所での生活	275	33.8	250	30.8
子ども、高齢者、障がい者の避難	275	33.8	-	-
堤防の決壊、浸水	267	32.8	186	22.9
地割れや液状化現象	202	24.8	267	32.9
外出先・勤務先から帰宅することができなくなる	169	20.8	208	25.6
ガスなどの危険物の爆発	166	20.4	178	21.9
原子力発電所事故	165	20.3	347	42.8
タンスなどの家具類の転倒	129	15.9	153	18.9
治安の混乱	113	13.9	120	14.8
安全な避難の経路・方法	109	13.4	-	-
企業の生産活動の停止	82	10.1	138	17.0
その他	15	1.8	14	1.7
分からない	1	0.1	5	0.6

●「電気、水道、ガスの供給停止」が73.7%で最も高く、次いで「食料・飲料水、燃料、日用品などの確保が困難になること」（70.5%）、「交通網の寸断」（59.8%）となっている。

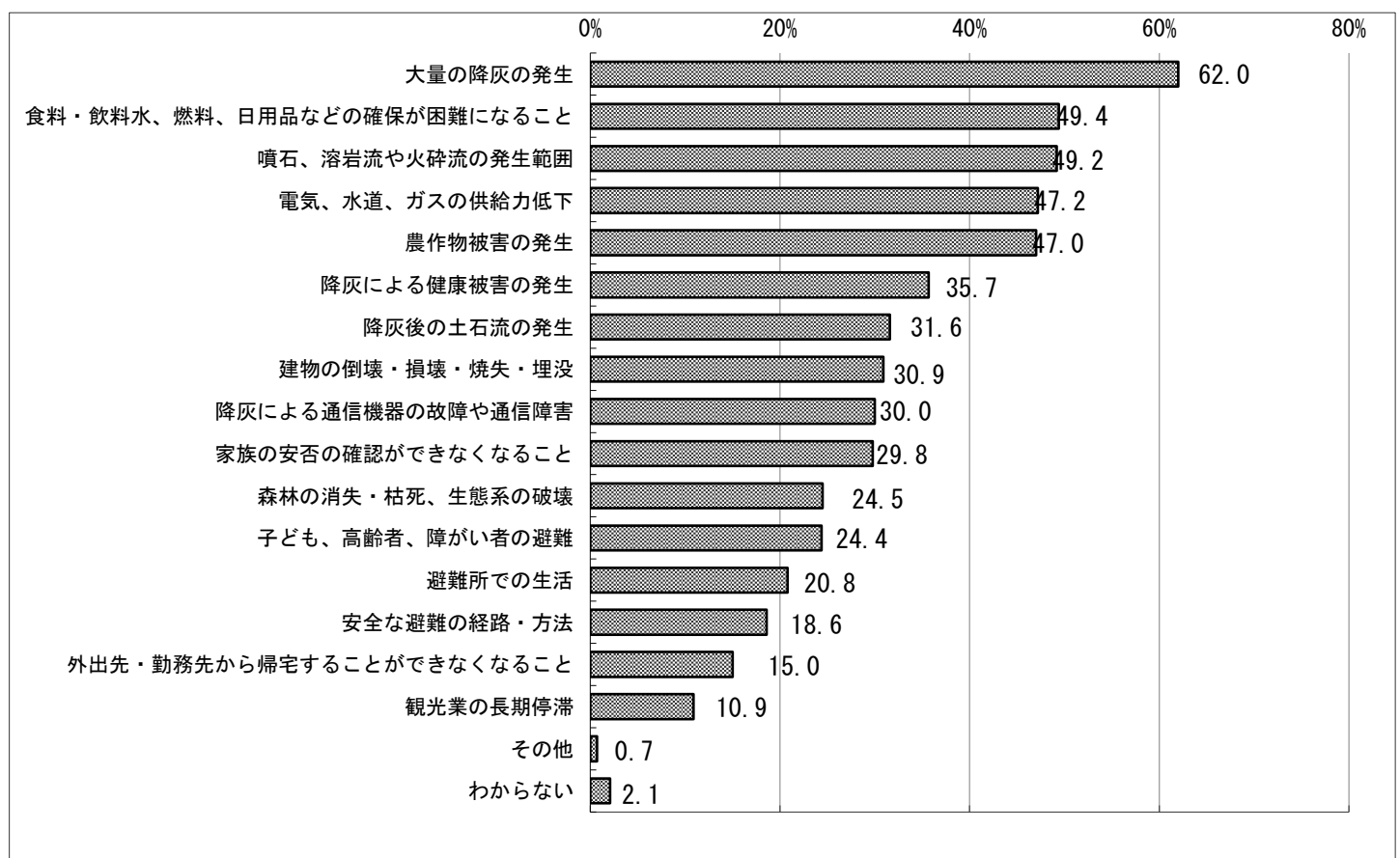


＜噴火で心配すること＞
「大量の降灰の発生」が約6割

問13 火山の噴火が起こった場合、心配なことを選んでください。（○はいくつでも）

	今回調査 n=813		(参考)前回 H26.12月調査 n=811	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
大量の降灰の発生	504	62.0	561	69.2
食料・飲料水、燃料、日用品などの確保が困難になること	402	49.4	320	39.5
噴石、溶岩流や火砕流の発生範囲	400	49.2	388	47.8
電気、水道、ガスの供給力低下	384	47.2	285	35.1
農作物被害の発生	382	47.0	345	42.5
降灰による健康被害の発生	290	35.7	361	44.5
降灰後の土石流の発生	257	31.6	264	32.6
建物の倒壊・損壊・焼失・埋没	251	30.9	238	29.3
降灰による通信機器の故障や通信障害	244	30.0	-	-
家族の安否の確認ができなくなる	242	29.8	192	23.7
森林の消失・枯死、生態系の破壊	199	24.5	213	26.3
子ども、高齢者、障がい者の避難	198	24.4	-	-
避難所での生活	169	20.8	171	21.1
安全な避難の経路・方法	151	18.6	-	-
外出先・勤務先から帰宅することができなくなる	122	15.0	111	13.7
観光業の長期停滞	89	10.9	242	29.8
その他	6	0.7	8	1.0
分からない	17	2.1	8	1.0

●「大量の降灰の発生」が62.0%で最も高く、次いで「食料・飲料水、燃料、日用品などの確保が困難になること」（49.4%）、「噴石、溶岩流や火砕流の発生範囲」（49.2%）となっている。



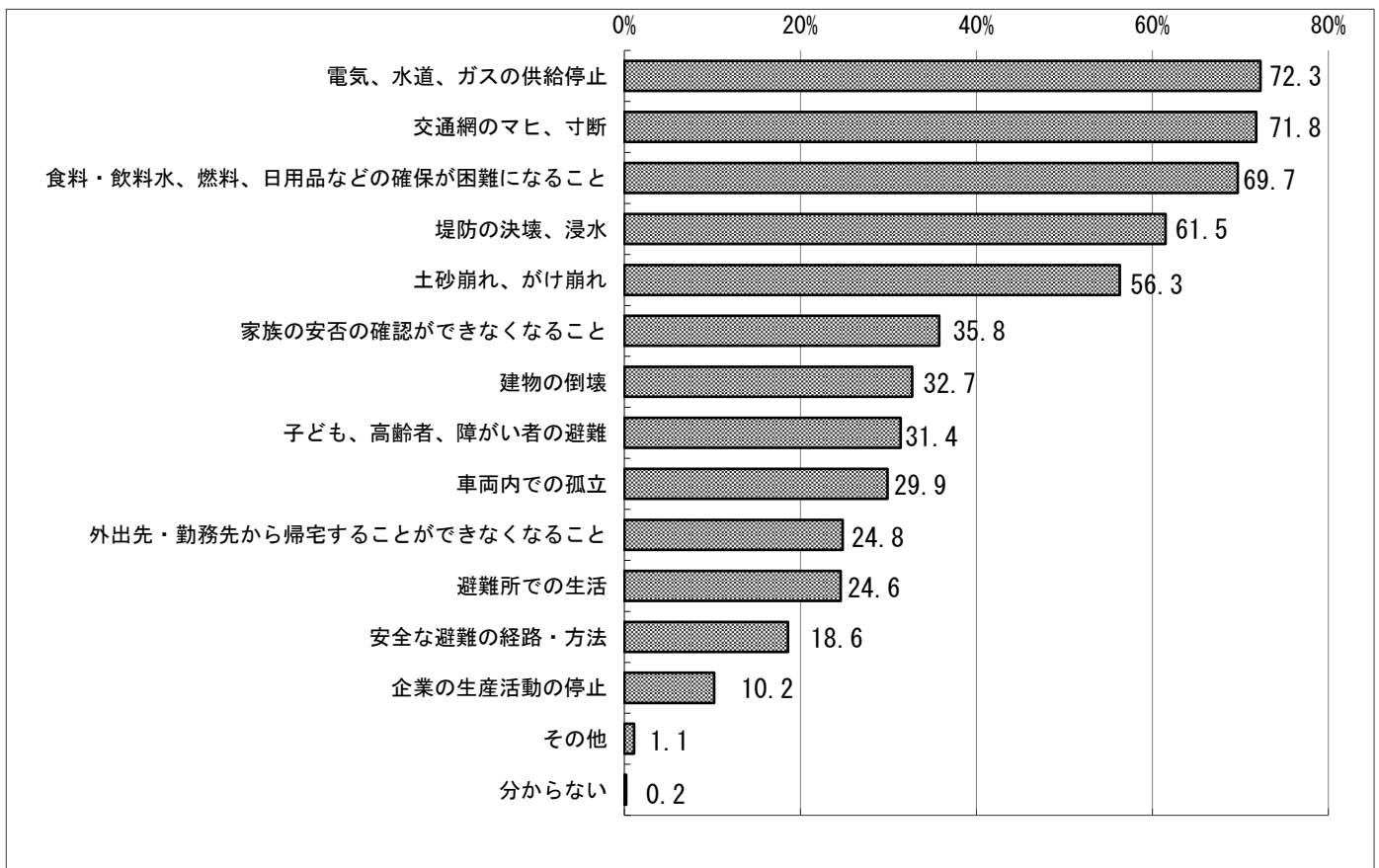
<豪雨・豪雪で心配すること>

「電気、水道、ガスの供給停止」、「交通網のマヒ、寸断」及び「食料・飲料水、燃料、日用品などの確保困難」が約7割

問14 豪雨・豪雪が起こった場合、心配なことを選んでください。（○はいくつでも）

	n=813	回答数 (人)	割合 (%)
電気、水道、ガスの供給停止		588	72.3
交通網のマヒ、寸断		584	71.8
食料・飲料水、燃料、日用品などの確保が困難になること		567	69.7
堤防の決壊、浸水		500	61.5
土砂崩れ、がけ崩れ		458	56.3
家族の安否の確認ができなくなる		291	35.8
建物の倒壊		266	32.7
子ども、高齢者、障がい者の避難		255	31.4
車両内での孤立		243	29.9
外出先・勤務先から帰宅することができなくなる		202	24.8
避難所での生活		200	24.6
安全な避難の経路・方法		151	18.6
企業の生産活動の停止		83	10.2
その他		9	1.1
分からない		2	0.2

● 「電気、水道、ガスの供給停止」が72.3%で最も高く、次いで「交通網のマヒ・寸断」（71.8%）、「飲料水、燃料、日用品などの確保が困難になること」（69.7%）となっている。



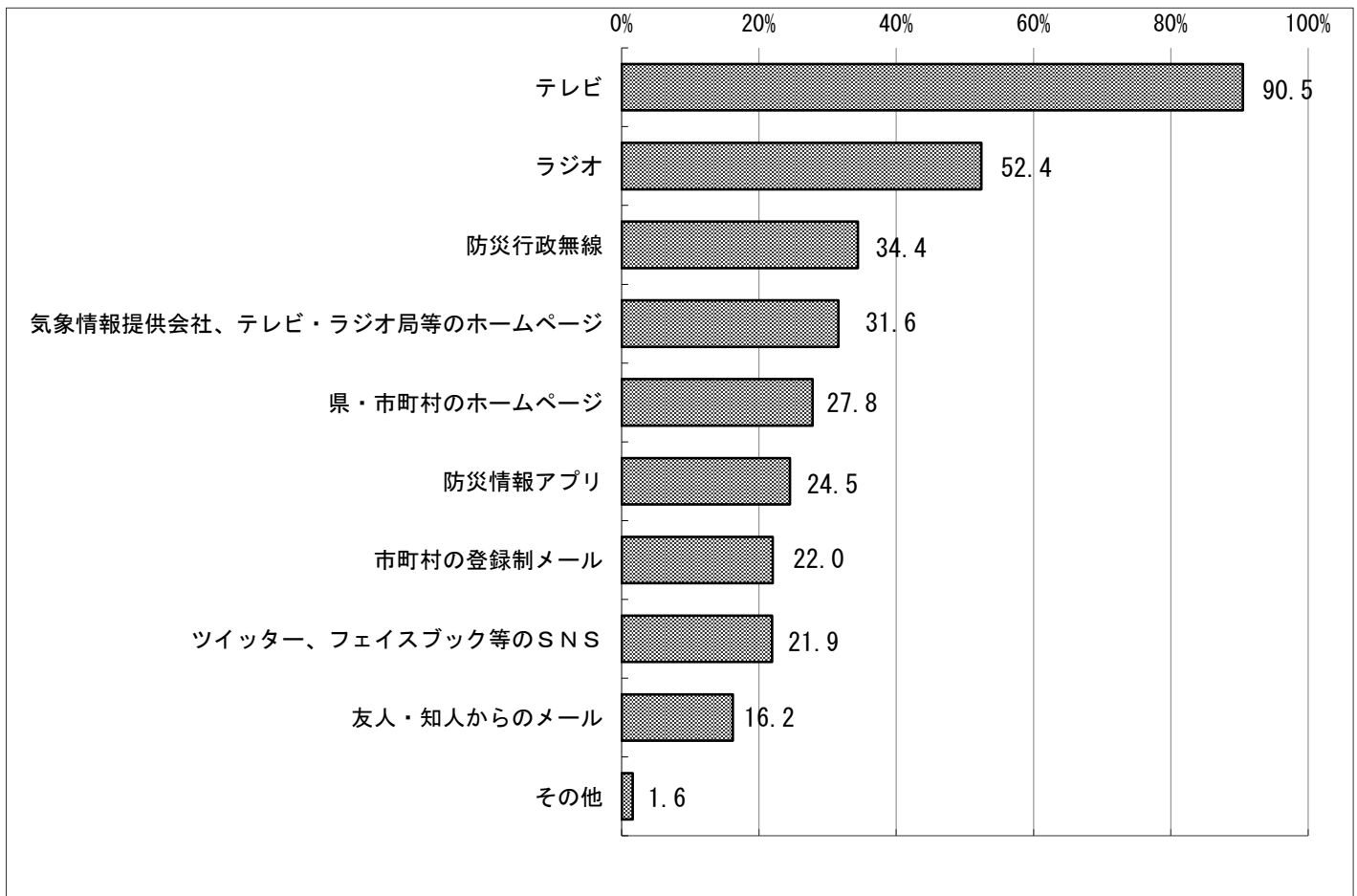
<災害情報の入手先>

「テレビ」が約9割であるが、情報入手先の多様化が進んでいる。

問15 災害情報の入手先として利用する機会が多いものを選んでください。(○はいくつでも)

	今回調査 n=813		(参考)前回 H26.12月調査 n=811	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ	736	90.5	697	85.9
ラジオ	426	52.4	425	52.4
防災行政無線	280	34.4	163	20.1
気象情報提供会社、テレビ・ラジオ局等のホームページ	257	31.6	63	7.8
県・市町村のホームページ	226	27.8	25	3.1
防災情報アプリ	199	24.5	-	-
市町村の登録制メール	179	22.0	54	6.7
ツイッター、フェイスブック等のSNS	178	21.9	58	7.2
友人・知人からのメール	132	16.2	30	3.7
その他	13	1.6	14	1.7

●「テレビ」が90.5%で最も高く、次いで「ラジオ」(52.4%)、「防災行政無線」(34.4%)となっている。



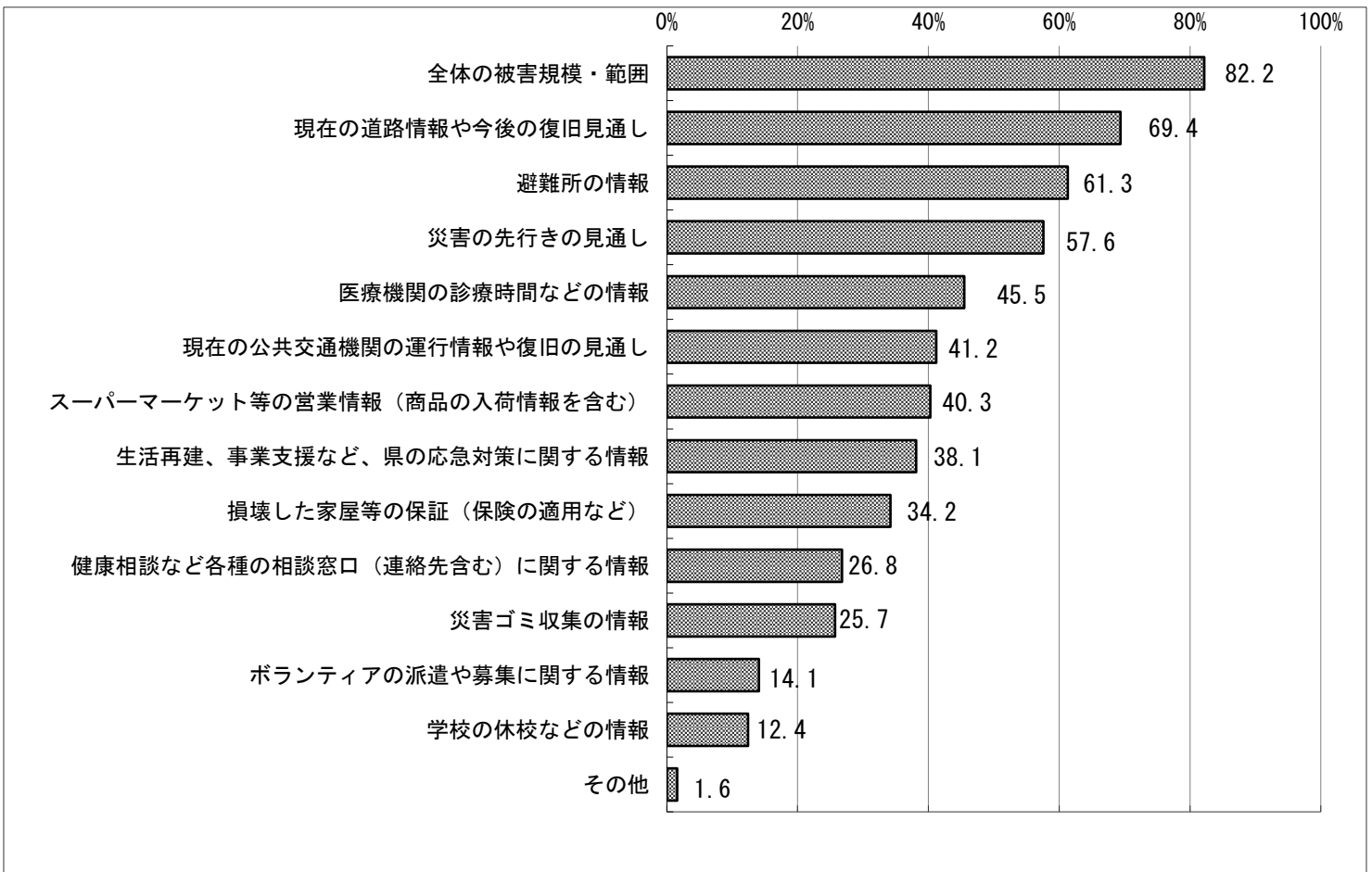
＜災害時に欲しい情報＞

「全体の被害規模・範囲」が約8割、次いで「現在の道路情報や今後の復旧見通し」が約7割

問16 災害発生時及び発生後に欲しい情報を選んでください。（○はいくつでも）

	今回調査 n=813		(参考)前回 H26.12月調査 n=811	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
全体の被害規模・範囲	668	82.2	-	-
現在の道路情報や今後の復旧見通し	564	69.4	456	56.2
避難所の情報	498	61.3	-	-
災害の先行きの見通し	468	57.6	-	-
医療機関の診療時間などの情報	370	45.5	197	24.3
現在の公共交通機関の運行情報や復旧の見通し	335	41.2	285	35.1
スーパーマーケット等の営業情報(商品の入荷情報を含む)	328	40.3	83	10.2
生活再建、事業支援など、県の応急対策に関する情報	310	38.1	75	9.2
損壊した家屋等の保証(保険の適用など)	278	34.2	86	10.6
健康相談など各種の相談窓口(連絡先含む)に関する情報	218	26.8	28	3.5
災害ゴミ収集の情報	209	25.7	7	0.9
ボランティアの派遣や募集に関する情報	115	14.1	13	1.6
学校の休校などの情報	101	12.4	19	2.3
その他	13	1.6	13	1.6

●「全体の被害規模・範囲」が82.2%で最も高く、次いで「現在の道路情報や今後の復旧見通し」（69.4%）、「避難所の情報」（61.3%）となっている。



<自然災害における最悪の事態>

「死傷者の発生」、「情報不足、真偽が判断できない情報の発生」、「ライフライン(電気、ガス等)の途絶」に関する意見が比較的多く寄せられた。

問17 あなたが考える自然災害における最悪の事態とは何ですか。自由に記述してください。

※ 記入のあった698名(記入率:85.9%)の記述を細分化のうえ内容ごとに分類・集計した。
細分化した記述内容の総数は1,277

	今回調査 n=1,277		(参考)前回 H26.12月調査 n=1,564	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
死傷者の発生	259	20.3	222	14.2
情報不足、真偽が判断できない情報の発生	165	12.9	57	3.6
ライフライン(電気、水道、ガス等)の途絶	111	8.7	203	13.0
多数の負傷者発生による救助の遅れ	110	8.6	21	1.3
家屋の倒壊	96	7.5	212	13.6
水、食料、日用品等の不足	64	5.0	131	8.4
道路の遮断等による交通網の麻痺	51	4.0	111	7.1
避難所での生活不安	48	3.8	76	4.9
災害後の生活(維持・復旧等)	46	3.6	-	-
家族・友人の安否が不明	39	3.1	81	5.2
孤立の発生	36	2.8	56	3.6
医療機関の停滞、混雑	35	2.7	36	2.3
経済・産業活動の停止	25	2.0	28	1.8
物流の停滞	22	1.7	116	7.4
堤防決壊等洪水の発生	22	1.7	-	-
治安の悪化	19	1.5	16	1.0
避難所への経路	13	1.0	-	-
コミュニティの遮断	10	0.8	-	-
地震による被害	10	0.8	-	-
原子力発電所の事故	8	0.6	35	2.2
JR、バス等公共交通機関の停止	8	0.6	33	2.1
火災の発生	6	0.5	24	1.5
土砂災害の発生	4	0.3	78	5.0
燃料の不足	4	0.3	19	1.2
火山の噴火	2	0.2	9	0.6

●上記以外に「農地(農作物)被害」、「感染症の発生」等の回答が見られた。

《自殺対策について》

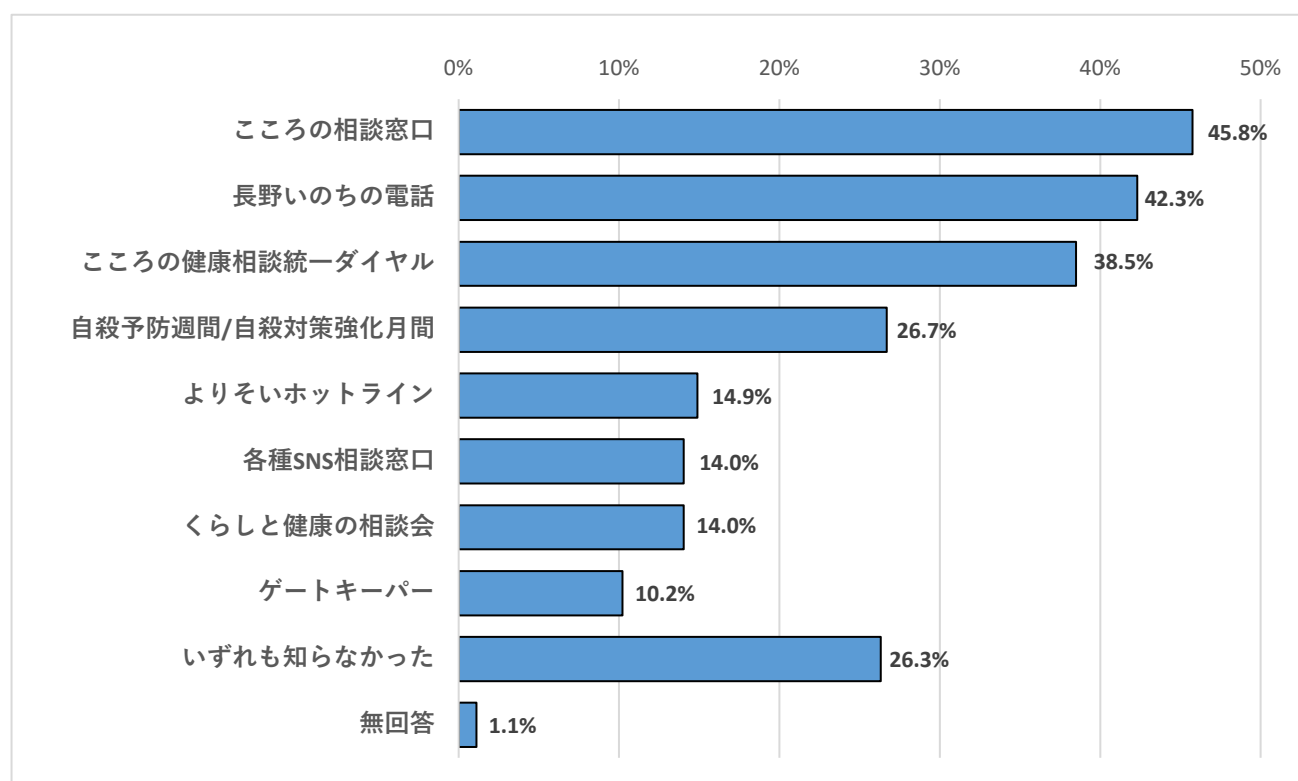
＜自殺対策に関する相談窓口等の認知度＞

各項目において、「知っている」と答えた人の割合は「こころの相談窓口」の認知度は4割超、「長野いのちの電話」「こころの健康相談統一ダイヤル」は約4割となった。

問18 自殺対策に関する以下の相談窓口等について知っていましたか。知っていたものに○をつけてください。(○はいくつでも)
①～⑧いずれも知らなかった場合は、⑨に○をつけ、問20へ進んでください。

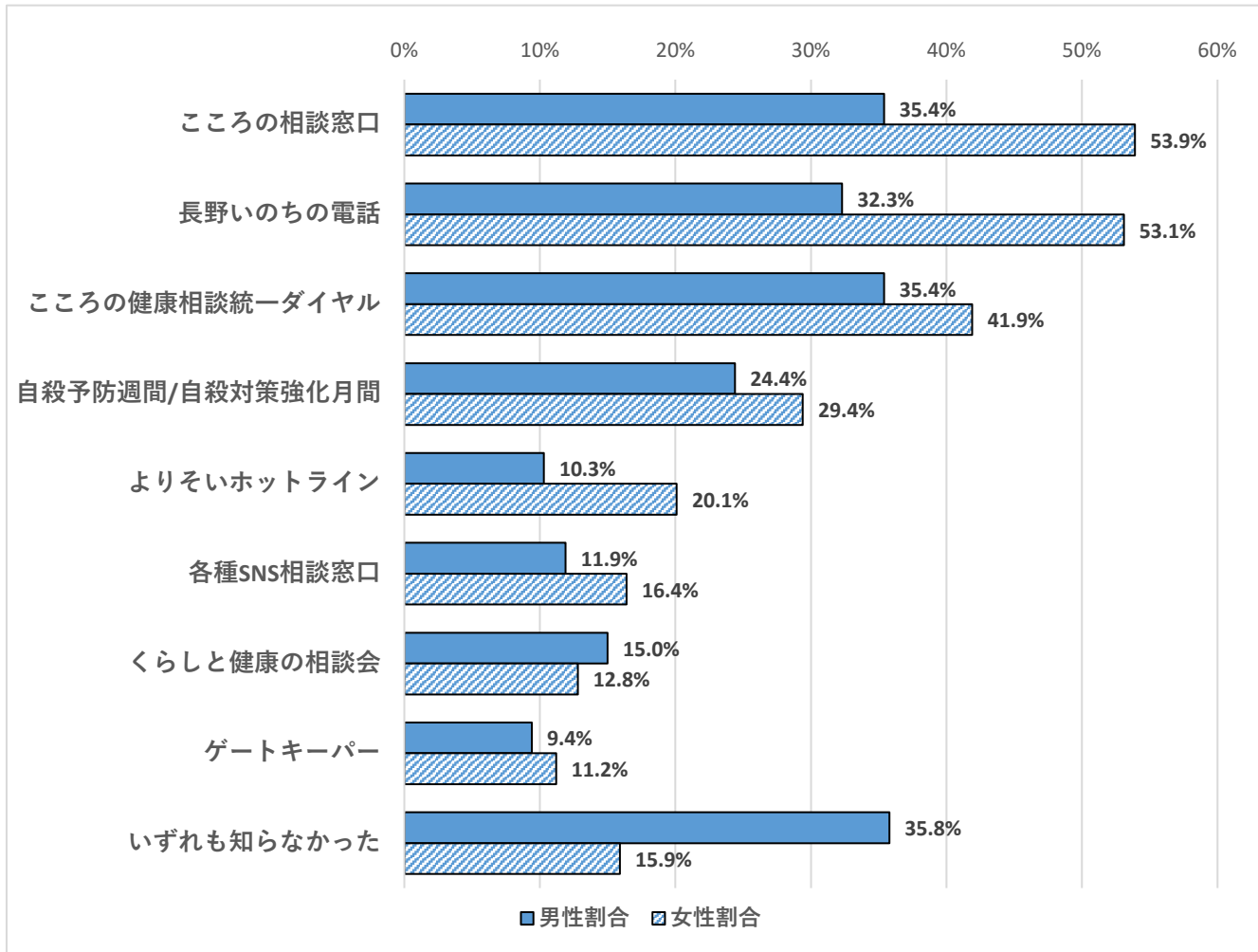
	今回調査 n=813		(参考)前回 R3.8月調査 n=899	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
こころの相談窓口	372	45.8	385	42.8
長野いのちの電話	344	42.3	442	49.2
こころの健康相談統一ダイヤル	313	38.5	383	42.6
自殺予防週間/自殺対策強化月間	217	26.7	-	-
よりそいホットライン	121	14.9	210	23.4
各種SNS相談窓口	114	14.0	186	20.7
くらしと健康の相談会	114	14.0	-	-
ゲートキーパー	83	10.2	116	12.9
いずれも知らなかった	214	26.3	-	-
無回答	9	1.1	-	-

● 「こころの相談窓口」は45.8%、「いのちの電話」は42.3%の認知度があるが、「ゲートキーパー」の認知度が10.2%と低く、「いずれも知らなかった」が26.3%となっている。



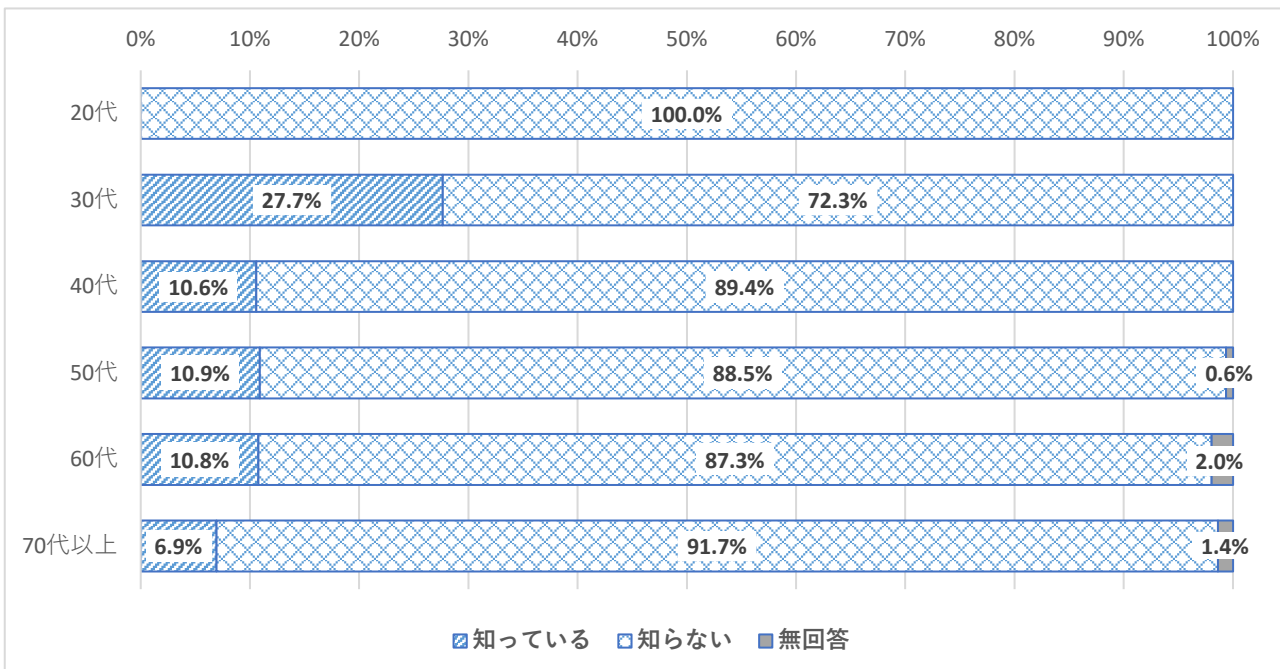
相談窓口等の認知度の男女別割合

- 全体的に女性に比べて男性の認知度が低い傾向にある。



最も認知度が低かった「ゲートキーパー」の年代別の割合

- 認知度が最も高かったのは30代で27.7%、最も低かったのは20代で0%であった。

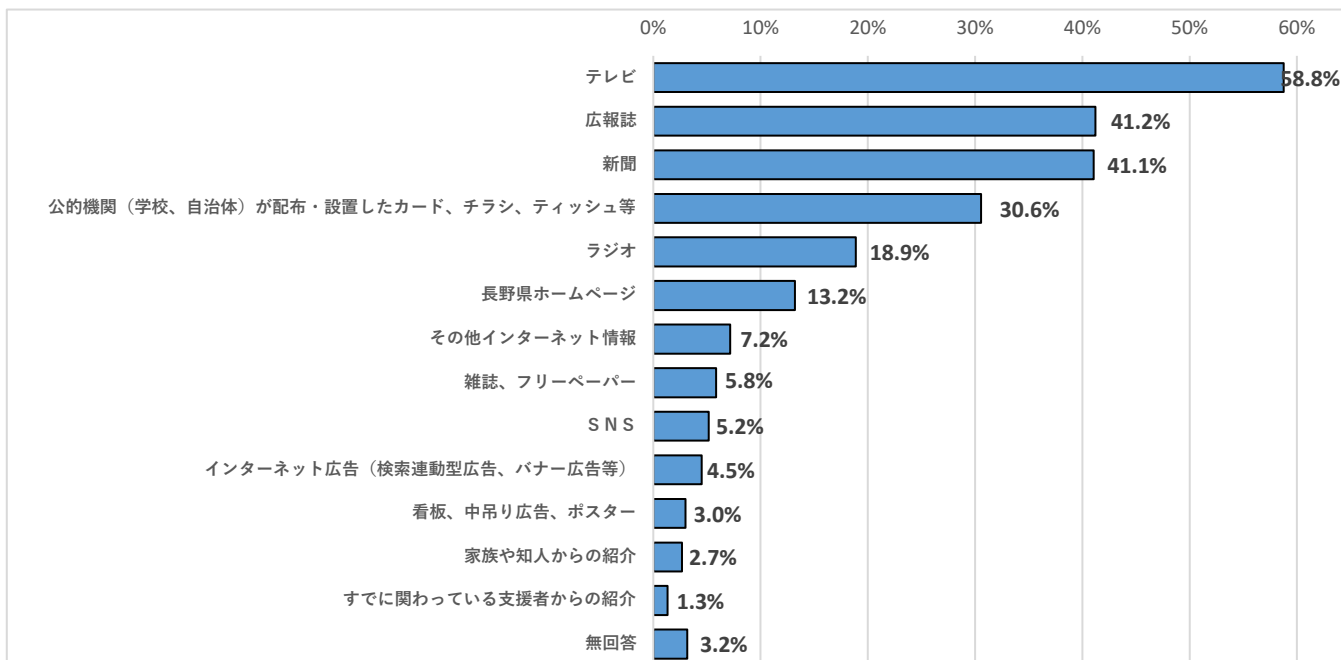


＜自殺対策に関する相談窓口等の情報源＞
 情報源としてはテレビが最も多く約6割となっている。

問19 自殺対策について、問18の相談窓口等があることをどのようにして知りましたか。当てはまるものを選んでください。（〇はいくつでも）

	n=599	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ		352	58.8%
広報誌		247	41.2%
新聞		246	41.1%
公的機関(学校、自治体)が配布・設置したカード、チラシ、ティッシュ等		183	30.6%
ラジオ		113	18.9%
長野県ホームページ		79	13.2%
その他インターネット情報		43	7.2%
雑誌、フリーペーパー		35	5.8%
SNS		31	5.2%
インターネット広告(検索連動型広告、バナー広告等)		27	4.5%
看板、中吊り広告、ポスター		18	3.0%
家族や知人からの紹介		16	2.7%
すでに関わっている支援者からの紹介		8	1.3%
無回答		18	3.0%

●テレビが情報源の人が最も多く58.8%となっている。次いで広報誌、新聞が約4割となっている。



●年代別の情報源を見てみると、30代から70代以上はテレビから情報を得たという回答が最も多いが、20代はSNSが最も多い。

	1	2	3
20代	SNS (40.0%)	公的機関(学校、自治体)が配布・設置したカード、チラシ、ティッシュ等 (30.0%)	テレビ (20.0%)
30代	テレビ (72.5%)	広報誌 (30.0%)	公的機関(学校、自治体)が配布・設置したカード、チラシ、ティッシュ等 (25.0%) 県HP (25.0%)
40代	テレビ (52.6%)	公的機関(学校、自治体)が配布・設置したカード、チラシ、ティッシュ等 (50.0%)	新聞 (32.1%)
50代	テレビ (55.2%)	広報誌 (35.3%)	公的機関(学校、自治体)が配布・設置したカード、チラシ、ティッシュ等 (34.5%)
60代	テレビ (52.3%)	広報誌 (43.8%)	新聞 (43.1%)
70代以上	テレビ (67.0%)	新聞 (55.0%)	広報誌 (50.5%)

※複数回答のため、合計は100%とならない

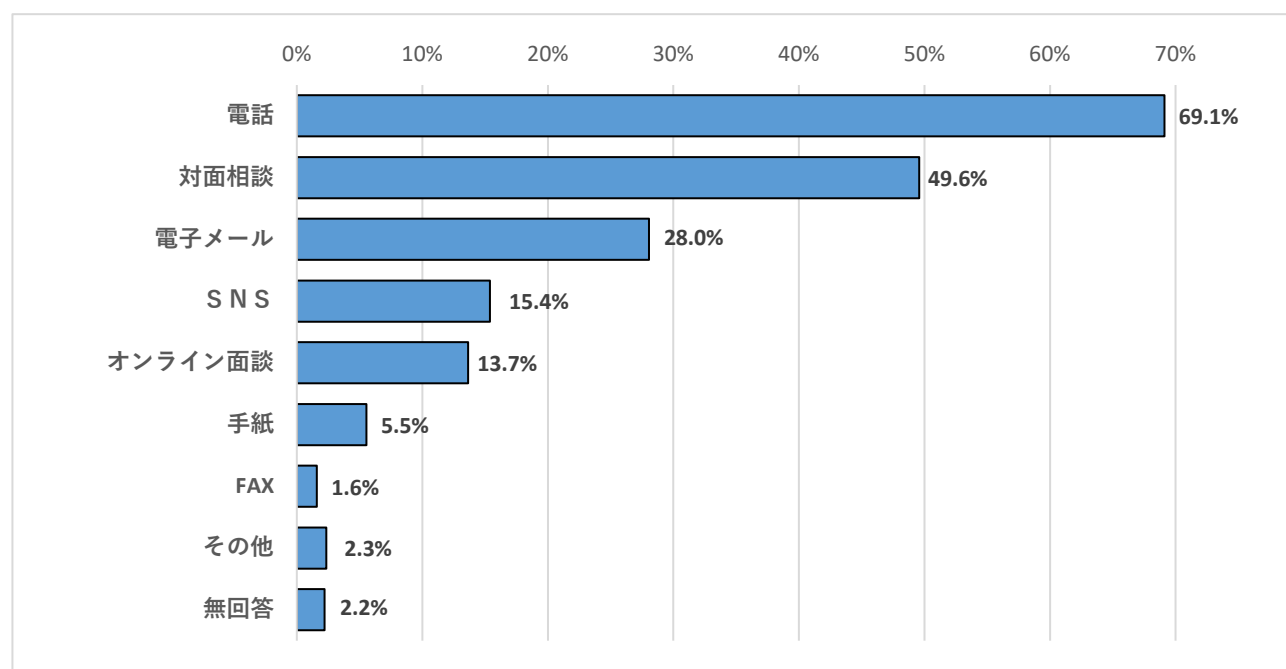
＜相談方法＞

相談方法として電話と回答する人が約7割で最も多いが、対面相談が約5割、電子メールも約3割となっている。

問20 あなたが相談をする時には、どのような相談方法が良いですか。当てはまるものを選んでください。（〇はいくつでも）

	n=813	回答数 (人)	割合 (%)
電話		562	69.1%
対面相談		403	49.6%
電子メール		228	28.0%
SNS		125	15.4%
オンライン面談		111	13.7%
手紙		45	5.5%
FAX		13	1.6%
その他		19	2.3%
無回答		18	2.2%

●電話が最も多く69.1%となっている一方、電子メールやSNS、オンライン面談などITを活用したものの合計は6割弱となっている。



その他としては、「そのような状況になってみないと分からない」「想像できない」等の回答が見られた。

●年代別の相談方法を見てみると、30代から70代以上は電話が最も多いが、20代はSNSが最も多い。

	1	2	3
20代	SNS (66.7%)	電話 (50.0%) 電子メール (50.0%)	対面相談 (33.3%)
30代	電話 (63.8%)	電子メール (38.3%)	対面相談 (34.0%)
40代	電話 (63.5%)	電子メール (41.3%)	対面相談 (39.4%)
50代	電話 (64.7%)	対面相談 (45.5%)	電子メール (34.6%)
60代	電話 (67.2%)	対面相談 (48.0%)	電子メール (26.5%)
70代以上	電話 (76.7%)	対面相談 (59.4%)	電子メール (18.4%)

※複数回答のため、合計は100%とならない

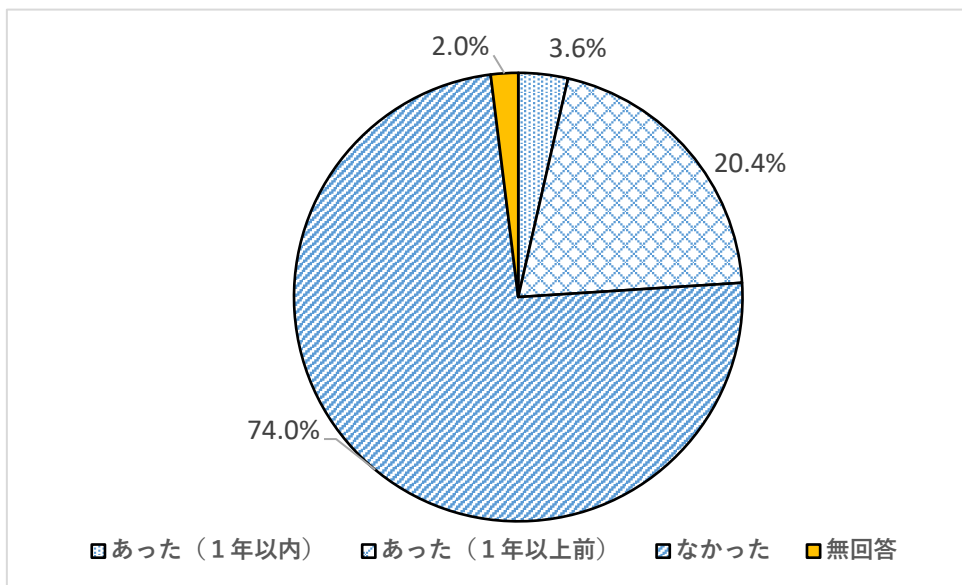
<過去に「死にたいほどつらい」気持ちになったことがあるかどうか>

1年以内に「死にたいほどつらい」気持ちになったと回答したのは3.6%だったが、過去にそのような気持ちになったことがある人も含めると2割を超えている。

問21 あなたは過去に「死にたいほどつらい」気持ちになったことがありますか。当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

	n=813	回答数 (人)	割合 (%)
あった(1年以内)		29	3.6%
あった(1年以上前)		166	20.4%
なかった		602	74.0%
無回答		16	2.0%

●「死にたいほどつらい」気持ちになったことがあるとの回答が、1年以内は3.6%、1年以上前は20.4%となっている。



<「死にたいほどつらい」気持ちになった際、どこに相談したか>

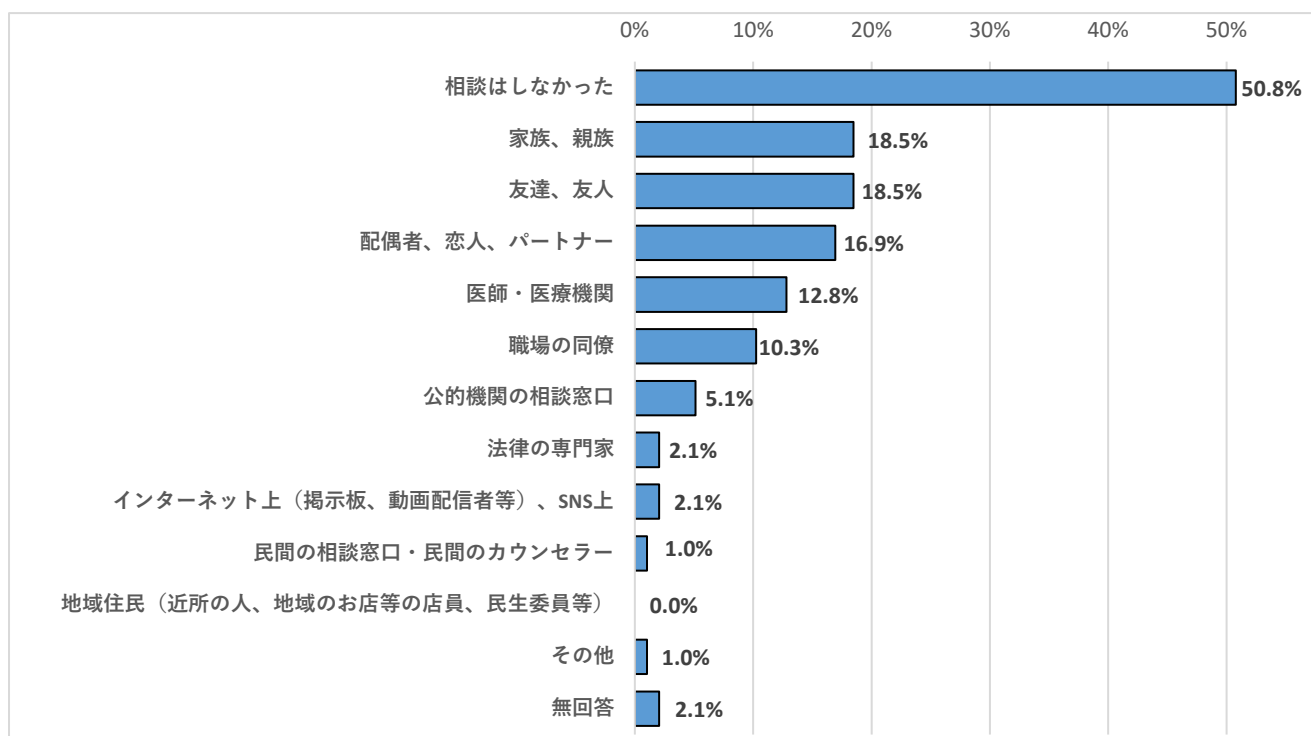
「死にたくなるほどつらい」気持ちになった際、「相談しなかった」との回答が5割に達した。

問22 問21で「①あった（1年以内）」または「②あった（1年以上前）」を選ばれた方にお伺いします。どんな人、窓口相談しましたか。当てはまるものを選んでください。（〇はいくつでも）

「③相談はしなかった」を選んだ方は問23へ進んでください。

	n=195	回答数 (人)	割合 (%)
相談はしなかった		99	50.8%
家族、親族		36	18.5%
友達、友人		36	18.5%
配偶者、恋人、パートナー		33	16.9%
医師・医療機関		25	12.8%
職場の同僚		20	10.3%
公的機関の相談窓口		10	5.1%
法律の専門家		4	2.1%
インターネット上(掲示板、動画配信者等)、SNS上		4	2.1%
民間の相談窓口・民間のカウンセラー		2	1.0%
地域住民(近所の人、地域のお店等の店員、民生委員等)		0	0.0%
その他		2	1.0%
無回答		4	2.1%

●「相談しなかった」が最も多く約5割となっており、次に家族・親族（18.5%）、友達・友人（18.5%）となっている。

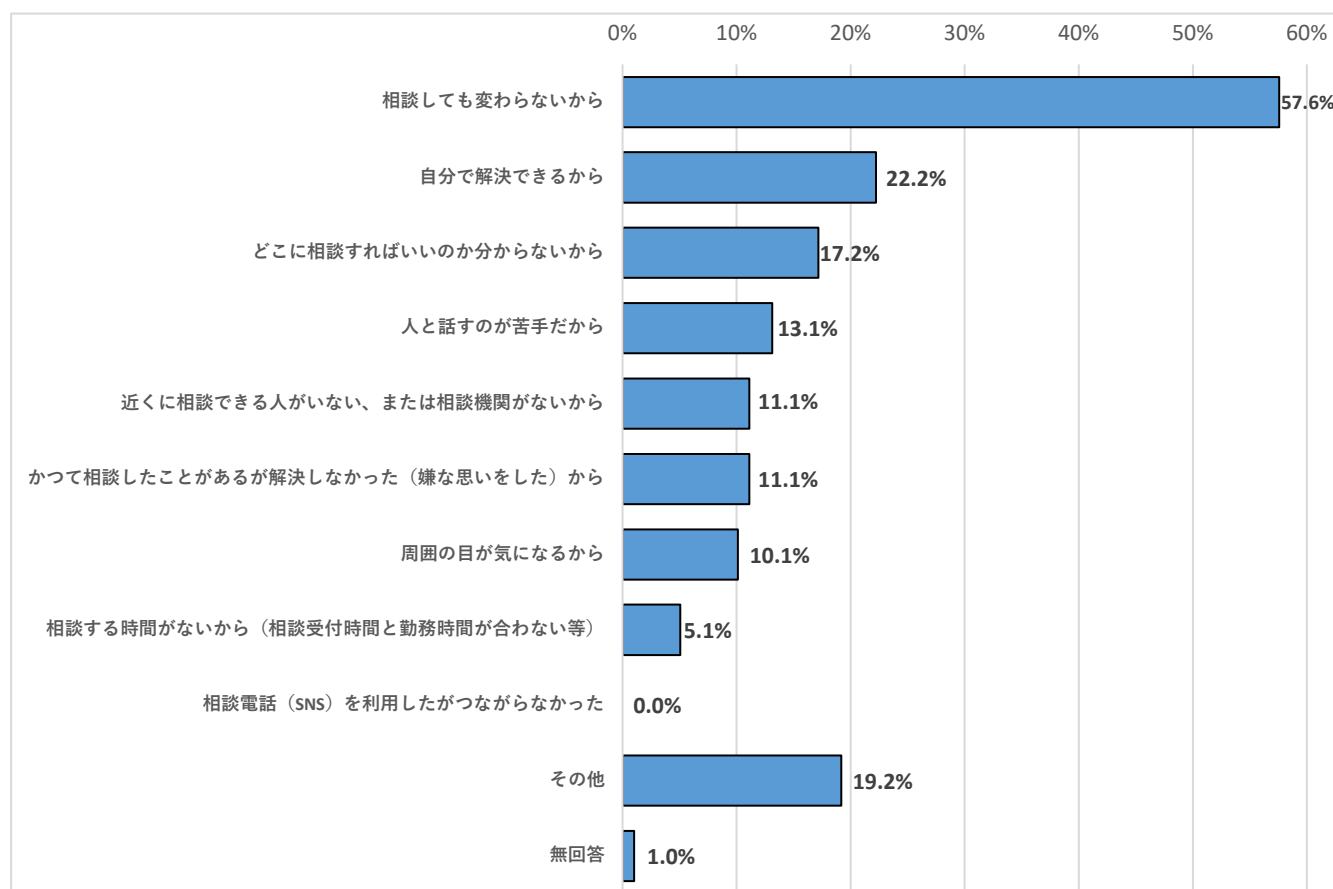


＜「死にたいほどつらい」気持ちになった際、相談しなかった理由＞
 相談しなかった理由として、「相談しても変わらないから」が最も多く、約6割を占めた。

問23 問22で「⑫相談はしなかった」を選ばれた方にお伺いします。相談しなかった理由はどれですか。当てはまるものを選んでください。（〇はいくつでも）

	n=99	回答数 (人)	割合 (%)
相談しても変わらないから		57	57.6
自分で解決できるから		22	22.2
どこに相談すればいいのかわからないから		17	17.2
人と話すのが苦手だから		13	13.1
近くに相談できる人がいない、または相談機関がないから		11	11.1
かつて相談したことがあるが解決しなかった(嫌な思いをした)から		11	11.1
周囲の目が気になるから		10	10.1
相談する時間がないから(相談受付時間と勤務時間が合わない等)		5	5.1
相談電話(SNS)を利用したがつながらなかった		0	0.0
その他		19	19.2
無回答		1	1.0

● 「相談しても変わらないから」が約6割、次いで「自分で解決できるから」が約2割、「どこに相談すればいいのかわからないから」が2割弱となっている。



その他としては、「自分で解決することが大事だから」「相談するという考えすらなかった」「心配かけたくない」等の回答が見られた。